

J P C

J A P A N P O W E R C I T I E S

日本の 都市特性評価

Japan Power Cities
Profiling Urban Attractiveness



2020



森記念財団
MORI MEMORIAL FOUNDATION

目次

はじめに	02
「日本の都市特性評価 2020」とは	03
対象都市	05
評価体系	07
109 都市 結果・分析	09
東京23区 結果・分析	22
指標の定義	25

はじめに

新型コロナウイルス感染症の影響により、国民の生活および経済活動は今までにない新たな局面での対応が必要となっています。このような状況下で、生活と活動の場である「都市」はどうか。そうした問題意識のなかで、都市の現在についての分析はますます重要性を増しています。

「日本の都市特性評価 (Japan Power Cities — Profiling Urban Attractiveness / JPC)」は、日本全体の活力を保ち続けるためには、都市の強みや魅力といった都市特性を明らかにすることで得られる都市の総合力を上げることが不可欠であるとの視点に立って行われています。2018年より発表されている分析結果は、各都市の政策立案のベンチマークとして活用されているだけでなく、ビジネスや居住選択のためのデータとしても用いられています。

日本では第3次産業の急速な発展によって大都市での肥大が進む一方で、地方都市での人口減少や産業の衰退が懸念されています。大都市がどうあるべきか、そして地方都市の活力をいかに取り戻すかが課題となっています。これらの課題の解決のためには、大都市と地方の都市特性を客観的に評価し、強み弱みを明らかにする必要があります。

今年は、対象都市の選定基準を変更することで新たに37都市を追加して評価を実施しました。また、経年変化のある指標データの更新を行うとともに、いくつかの指標については、これまで以上に意味のある内容となることを目指して定義の変更を行い、さらに都市を取り巻く環境の変化をより反映させるために、新たな指標を追加しました。

JPC2020で用いているデータは主に2020年1月～3月に収集しており、また用いている定量データは「平成27年国勢調査結果」「平成26年経済センサス」などの統計資料もあるため、今回の結果に新型コロナウイルス感染症が社会経済に与えた影響はまだ直接的には反映されておりません。しかし、今後も継続して評価を行ってまいりますので、JPCを通じて、この感染症の影響を受けた各都市の特性や魅力の動向を把握して頂き、各都市ひいては日本全体が活力を保ち続けるような政策の立案に役立つことを期待しています。

日本の都市特性評価 運営委員会 委員長

市川 宏雄

2020年8月



「日本の都市特性評価 2020」とは

About JPC 2020

背景・目的

世界の総人口が今後も増加を続けていくと予測されている一方、日本では少子高齢化および急速な人口減少が見込まれている。そのような状況に直面してもなお、**日本全体が活力を保ち続けるためには、各都市がそれぞれの“特性”を活かしながら都市づくりを進め**、人や企業を惹きつける「磁力」と、魅力や強みを継続的に発揮し続ける「発展性」を維持していかなければならない。

そのためには、各都市が現在の都市の力を客観的に把握した上で、次の時代に向けた都市戦略を立案し、実行に移していくことが求められる。そこで、「日本の都市特性評価」では、日本の各都道府県における主要都市を対象として、都市の力を定量・定性データをもとに**相対的かつ多角的に分析し、都市の強みや魅力といった都市特性を明らかにすることを目的**として調査研究を行った。

策定体制

運営委員会

Steering Committee

評価体系の構築、データ収集、評価・分析

【委員長】



市川 宏雄

Hiroo Ichikawa

明治大学名誉教授

【メンバー】

森記念財団 都市戦略研究所

有識者委員会

Expert Committee

専門的な見地からの意見および助言

【委員（五十音順）】



浅見 泰司

Yasushi Asami

東京大学大学院
工学系研究科
教授



市川 一宏

Kazuhiro Ichikawa

ルーテル学院大学
学術顧問・教授



岸井 隆幸

Takayuki Kishii

日本大学理工学部
土木工学科
特任教授



中井 検裕

Norihiro Nakai

東京工業大学
環境・社会理工学院長
教授



中川 雅之

Masayuki Nakagawa

日本大学
経済学部
教授



花木 啓祐

Keisuke Hanaki

東洋大学
情報連携学部教授、
東京大学名誉教授



吉見 俊哉

Shunya Yoshimi

東京大学大学院
情報学環
教授



意見
助言

評価手法

▶ Creating Framework



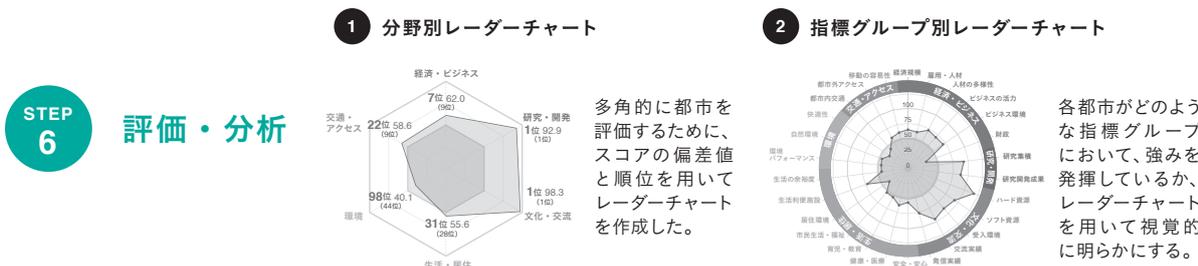
▶ Data Collection



▶ Indexation



▶ Evaluation and Analysis



対象都市

Target Cities

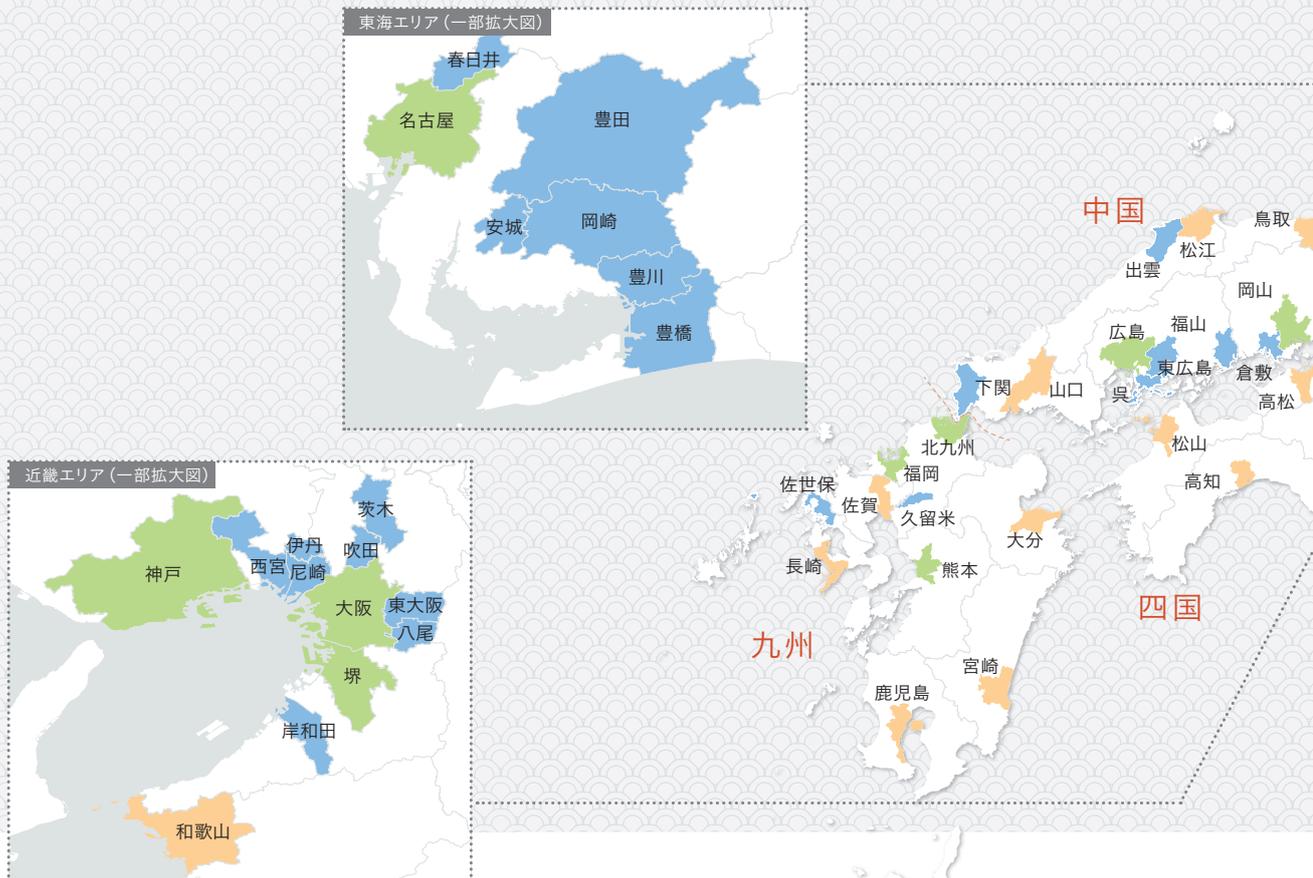
本調査は、国内の109都市と東京23区を対象としている。
109都市については下記のとおり選定基準を設定し、抽出した。

1. 政令指定都市
2. 都道府県庁所在地（政令指定都市を除く）
3. 人口17万人以上、かつ昼夜間人口比率0.9以上の都市

	政令指定都市	都道府県庁所在地 (政令指定都市を除く)	人口17万人以上、 昼夜間人口比率0.9以上の都市
北海道	札幌		函館・旭川・釧路・苫小牧
東北	仙台	青森・盛岡・秋田・山形・福島	弘前・八戸・郡山・いわき
関東	さいたま・千葉・横浜・川崎・相模原	水戸・宇都宮・前橋・甲府・長野	日立・つくば・高崎・伊勢崎・太田・川越・熊谷・柏・市原・八王子・立川・府中・町田・横須賀・平塚・鎌倉・藤沢・小田原・厚木・松本
東海	静岡・浜松・名古屋	岐阜・津	沼津・富士・豊橋・岡崎・春日井・豊川・豊田・安城・四日市・鈴鹿
北陸	新潟	富山・金沢・福井	長岡・上越・高岡
近畿	京都・大阪・堺・神戸	大津・奈良・和歌山	岸和田・吹田・茨木・八尾・東大阪・姫路・尼崎・西宮・伊丹
中国	岡山・広島	鳥取・松江・山口	出雲・倉敷・呉・福山・東広島・下関
四国		徳島・高松・松山・高知	
九州	北九州・福岡・熊本	佐賀・長崎・大分・宮崎・鹿児島	久留米・佐世保
沖縄		那覇	
東京23区	千代田区・中央区・港区・新宿区・文京区・台東区・墨田区・江東区・品川区・目黒区・大田区・世田谷区・渋谷区・中野区・杉並区・豊島区・北区・荒川区・板橋区・練馬区・足立区・葛飾区・江戸川区		

109都市

東京23区



評価体系

Evaluation System

各指標をスコア化し平均したものを指標グループのスコアとし、さらにそれらを合算して分野別スコアを算出した。合計スコアは、それらを合計して2,600満点(経済・ビジネス600点、研究・開発200点、文化・交流500点、生活・居住700点、環境300点、交通・アクセス300点)で作成した。

分野	指標グループ	指標		
経済・ ビジネス	6 指標グループ	経済規模	1 付加価値額 2 地域内総支出 3 昼夜間人口比率	
		雇用・人材	4 従業者数 5 賃金水準 6 高等教育修了者割合 7 若手人材の転入出	
		人材の多様性	8 女性就業者割合 9 外国人就業者割合 10 高齢者就業率	
		ビジネスの活力	11 新規設立法人登記割合 12 労働生産性 13 特区制度認定地域数	
		ビジネス環境	14 対事業所サービス従業者割合 15 新規不動産業用建築物供給面積 16 フレキシブル・ワークプレイス密度	
		財政	17 財政力指数 18 経常収支比率の低さ 19 実質公債費比率の低さ 20 将来負担比率の低さ	
	研究・開発	2 指標グループ	研究集積	21 学術・開発研究機関従業者割合 22 トップ大学数
			研究開発成果	23 論文投稿数 24 グローバルニッチトップ企業数
			ハード資源	25 観光地の数・評価 26 文化財指定件数 27 景観まちづくりへの積極度
			ソフト資源	28 イベントの数・評価 29 クリエイティブ産業従業者割合 30 文化・歴史・伝統への接触機会 
	文化・交流	5 指標グループ	受入環境	31 宿泊施設客室数 32 高級宿泊施設客室数 33 イベントホール数 34 観光案内所・病院の多言語対応
			交流実績	35 休日の人の多さ 36 行楽・観光目的の訪問の多さ 37 国際会議・展示会開催件数
			発信実績	38 観光客誘致活動 39 自治体 SNS フォロワー数 40 魅力度・認知度・観光意欲度

分野	指標グループ	指標
----	--------	----

生活・居住	7 指標グループ	安全・安心	41	刑法犯認知件数の少なさ
			42	交通事故死亡者数の少なさ
			43	災害時の安全性
			44	空家率の低さ
		健康・医療	45	医師の多さ
			46	病院・診療所の多さ
			47	平均寿命・健康寿命
	育児・教育	48	合計特殊出生率	
		49	保育ニーズの充足度	
		50	子どもの医療費支援	
	市民生活・福祉	51	教育機会の包容性	
		52	外国人住民の受入体制	
		53	要支援・要介護高齢者の少なさ	
	居住環境	54	地域包括支援センターの多さ	
55		居住環境の満足度 ◎		
56		新規住宅供給の多さ		
生活利便施設	57	住宅の広さ		
	58	住宅のバリアフリー化率		
	59	小売事業所密度		
生活の余裕度	60	飲食店舗密度		
	61	コンビニ密度		
	62	可処分所得		
	63	物価水準の低さ		
	64	住宅コストの低さ		

環境	3 指標グループ	環境パフォーマンス	65	リサイクル率
			66	CO ₂ 排出量の少なさ
			67	再生可能エネルギー自給率
	68		EV充電スタンドの多さ	
	自然環境	69	自然環境の満足度 ◎	
		70	都市地域緑地率	
		71	水辺の充実度	
	快適性	72	年間日照時間	
		73	気温・湿度が快適な日数	
74		空気のきれいさ		

交通・アクセス	3 指標グループ	都市内交通	75	公共交通の利便性 ◎
			76	鉄道駅・バス停密度
			77	交通渋滞の少なさ
	都市外アクセス	78	空港アクセス時間の短さ	
		79	新幹線の利用のしやすさ	
	移動の容易性	80	インターチェンジ数	
		81	都市のコンパクトさ	
82		通勤時間の短さ		
83	駅のバリアフリー化率			

◎ : アンケートに基づく指標

合計スコアの上位16都市について、分野別および指標グループ別レーダーチャート（偏差値は対象109都市内で算出）を用いてそれぞれの強みや魅力を分析した。

1 京都市

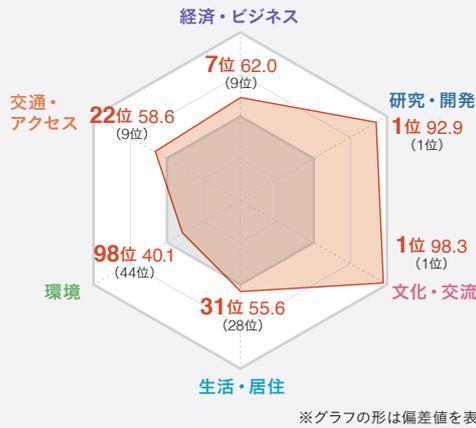
KYOTO



文化と研究という2本の柱をもつ、世界的な文化都市

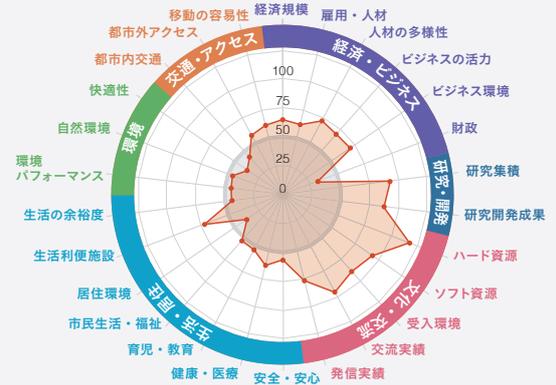
2017年より、〈文化首都・京都〉を目指した取り組みを推進している京都市は、**文化・交流**に対する評価がJPC対象109都市の中で最も高い。中でも観光地の数・評価、文化財指定件数、景観まちづくりへの積極度の3指標から構成される、「ハード資源」の評価が抜きでている。京都市はさらに、**研究・開発**に対する評価も対象109都市の中で最も高く、トップ大学数、論文投稿数が非常に高い評価となっている。京都市は、世界に誇る文化資源のみならず日本トップクラスの知的集積も有する、磁力にあふれた都市である。

分野別の順位・偏差値



□ 2020 分野別偏差値 ● 偏差値50ライン
() 2019の順位

指標グループ別の偏差値



□ 2020 指標グループ別偏差値 ● 偏差値50ライン

2 大阪市

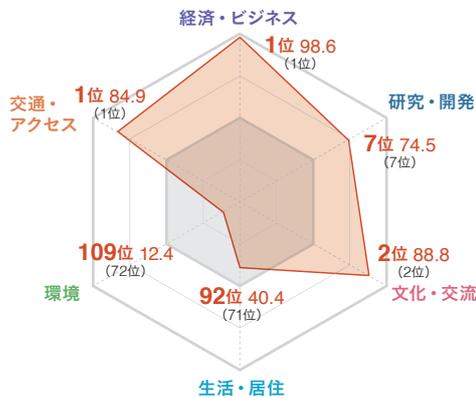
OSAKA



経済活動・交流活動が活発な関西圏の中心都市

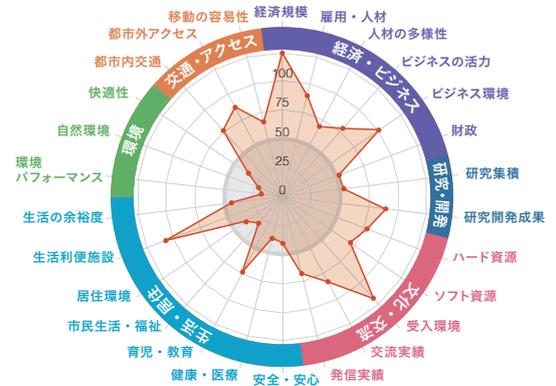
大阪市は、**経済・ビジネス**、**文化・交流**において昨年よりさらにスコアを伸ばし、合計スコアも高得点となった。**経済・ビジネス**ではその「経済規模」の大きさや、新規不動産用建築物供給面積の大きさに代表される「ビジネス環境」の良さが影響している。**文化・交流**については、施設数から客室数に定義を変更した宿泊施設客室数の指標でスコアを伸ばしており、「受入環境」の良さが改めて評価された。「生活利便施設」が高評価である**生活・居住**は、子どもの医療費支援で評価を上げるなど改善が見られた。今後、「市民生活・福祉」などの評価が改善されるとさらにスコアを伸ばす可能性がある。

分野別の順位・偏差値



□ 2020 分野別偏差値 ● 偏差値50ライン
() 2019の順位

指標グループ別の偏差値



□ 2020 指標グループ別偏差値 ● 偏差値50ライン

3

福岡市 FUKUOKA

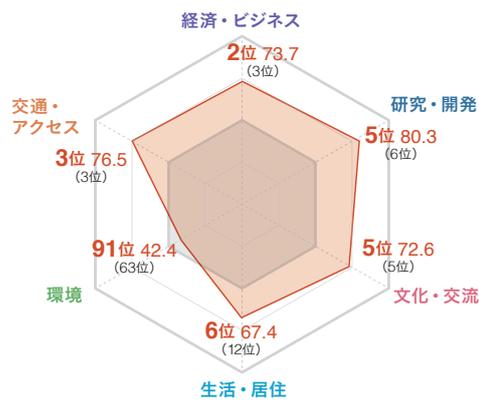


写真提供：福岡市

成長をつづけるバランス型都市

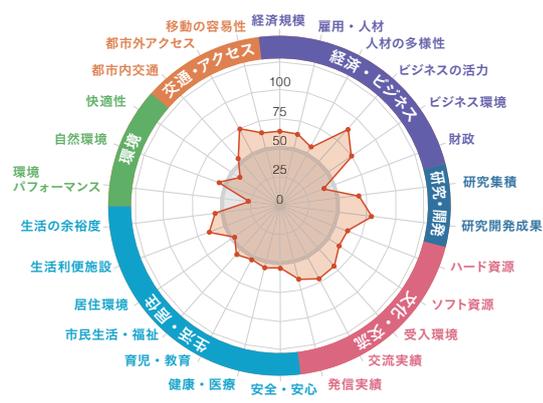
福岡市は、**経済・ビジネス**における「ビジネスの活力」、「ビジネス環境」、そして**交通・アクセス**の「都市外アクセス」における評価が非常に高い。また、特筆すべき点としては、それらの2分野だけでなく、**文化・交流**、**研究・開発**、**生活・居住**の3分野でも評価が高いことがあげられる。他の分野と比べて**環境**は評価が低く、特にリサイクル率やCO₂排出量の少なさなどの指標で構成される「環境パフォーマンス」には改善の余地がある。しかしながら、**アジアの交流拠点都市**を目指す福岡市は、多くの人・ビジネスを惹きつける、魅力的なバランス型の都市であることは間違いない。

分野別の順位・偏差値



■ 2020 分野別偏差値 ● 偏差値 50ライン
() 2019 の順位

指標グループ別の偏差値



■ 2020 指標グループ別偏差値 ● 偏差値 50ライン

109
都市
結果・分析

4

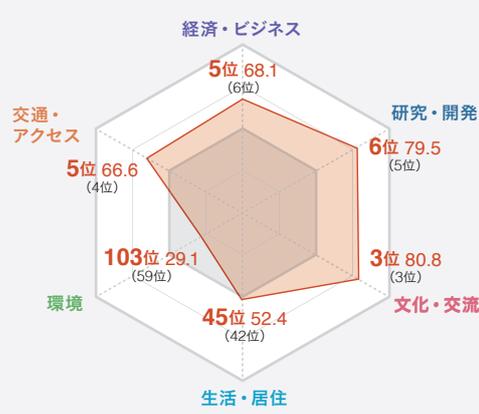
横浜市 YOKOHAMA



文化・交流力にさらに磨きをかけ躍進する多機能都市

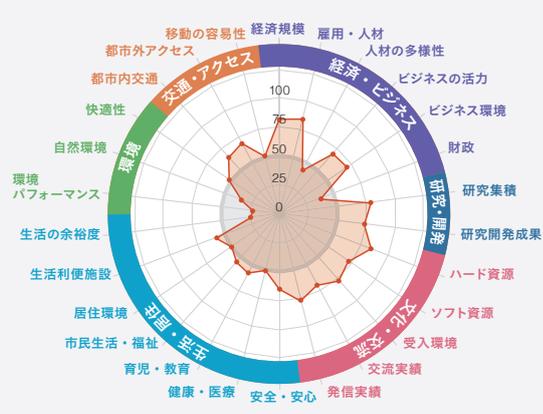
文化観光政策に重点を置く横浜市は、**文化・交流**における5つ全ての指標グループで高偏差値を獲得した。特に景観まちづくりへの積極度と自治体SNSフォロワー数は対象109都市の中で最も高いスコアを得た。**経済・ビジネス**は「雇用・人材」および「経済規模」で高評価を獲得した。なかでも従業者数が大阪に次ぐ2位、付加価値額は大阪、名古屋に次いで3位と、その経済力の強さをみせた。**研究・開発**、**交通・アクセス**も評価が高いことから、多様な都市機能を高い水準で有していることがわかる。推進している文化観光政策によって、強みをさらに伸ばすことができれば、都市力がより一層高まるが見込まれる。

分野別の順位・偏差値



■ 2020 分野別偏差値 ● 偏差値 50ライン
() 2019 の順位

指標グループ別の偏差値



■ 2020 指標グループ別偏差値 ● 偏差値 50ライン

5 名古屋市

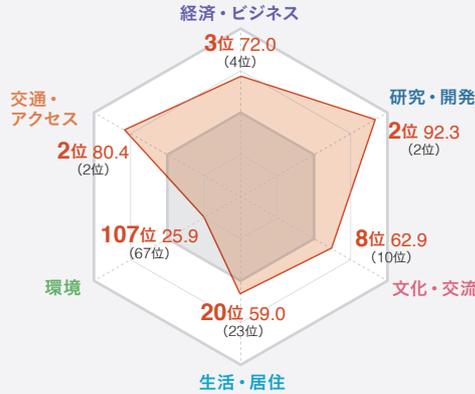
NAGOYA



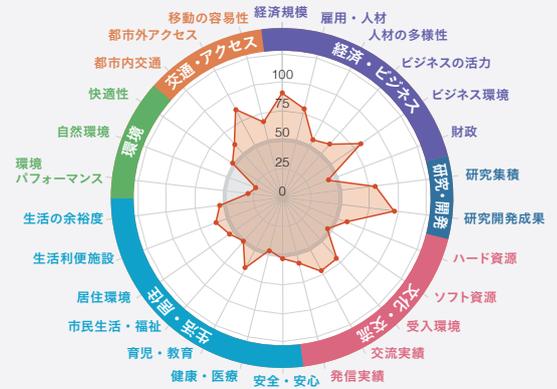
交通の要衝、研究開発に優れた中部圏の中核都市

名古屋市は、**交通・アクセス**と**研究・開発**で高評価を得た。**交通・アクセス**においては「都市外アクセス」が大阪市に次ぐ2位であり、交通の要衝としての強さを示した。**研究・開発**は、名古屋大学、名古屋工業大学、名古屋市立大学など国内有数の教育機関が立地していることから、トップ大学数、論文投稿数の指標で高スコアを獲得した。**経済・ビジネス**では「経済規模」や「ビジネス環境」で高評価を得て、中部圏の中核都市としての経済の強さをみせた。さらに**生活・居住**では、「育児・教育」を筆頭に、その他の指標グループも安定した評価を見せており、暮らしやすい都市としての魅力も示している。

分野別の順位・偏差値

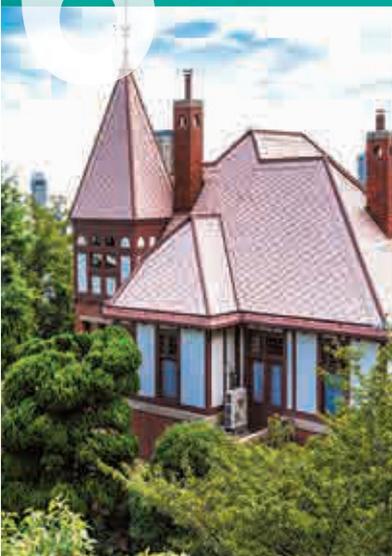


指標グループ別の偏差値



6 神戸市

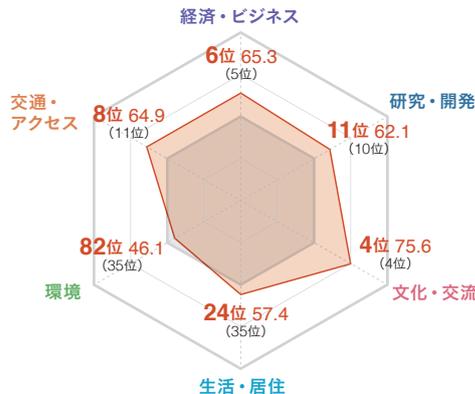
KOBE



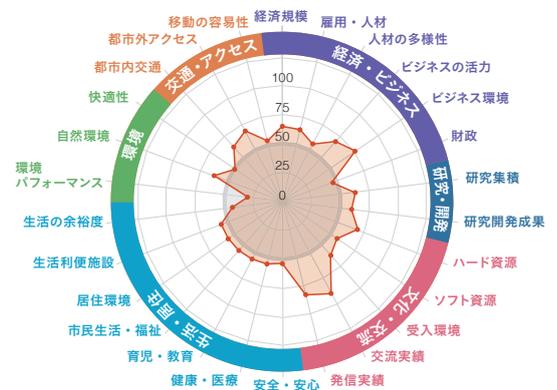
文化的な魅力と経済力を併せ持つバランス型都市

神戸市は、**文化・交流**において強みを有しており、特に「交流実績」の国際会議・展示会開催件数は対象109都市の中で最も評価が高い。また、「発信実績」の魅力度・認知度・観光意欲度でも高い評価を得た。**経済・ビジネス**における「ビジネス環境」や、**交通・アクセス**における「都市外アクセス」などの評価も高い。経済規模の大きい都市では低評価になりがちな**生活・居住**においても比較的高い評価を得ている。**環境**では自然環境の満足度や都市地域緑地率、水辺の充実度といった「自然環境」の評価が良いことから、大都市でありながら、自然の豊かさや住みやすさを兼ね備えていることがわかる。

分野別の順位・偏差値



指標グループ別の偏差値



7 仙台市

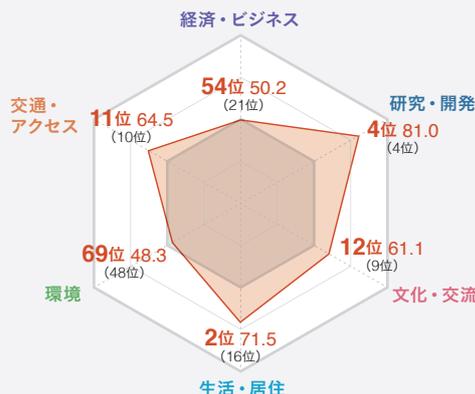
SENDAI



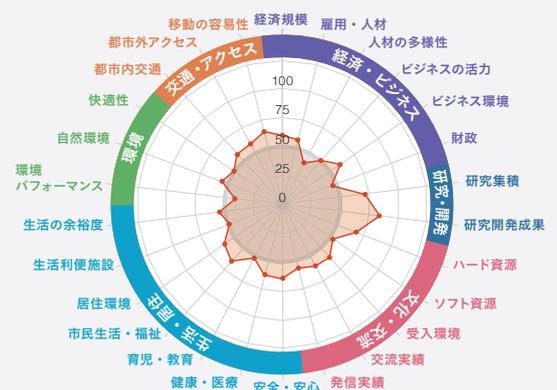
居住性の高さが魅力的な研究開発に優れた杜の都

東北圏の中心都市である仙台市は**生活・居住**で強みを発揮した。「生活利便施設」でやや平均を下回るも、その他の指標グループでは、「市民生活・福祉」や「安全・安心」を中心に、高い評価を獲得している。外国人住民の受入体制や、災害時の安全性などの指標での高スコアが主な要因として挙げられる。また、**研究・開発**も高評価であるが、これは研究機関が多く立地していることによる論文投稿数の多さだけでなく、グローバルニッチトップ企業数が多いなど、ものづくり産業が集積していることもその理由に挙げられる。**文化・交流**においても高い評価を得ており、杜の都・仙台ならではの魅力もみせている。

分野別の順位・偏差値



指標グループ別の偏差値





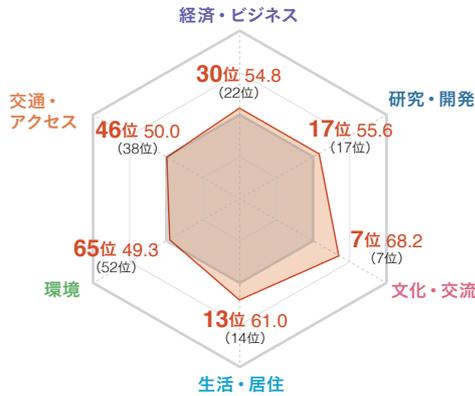
8 金沢市

KANAZAWA

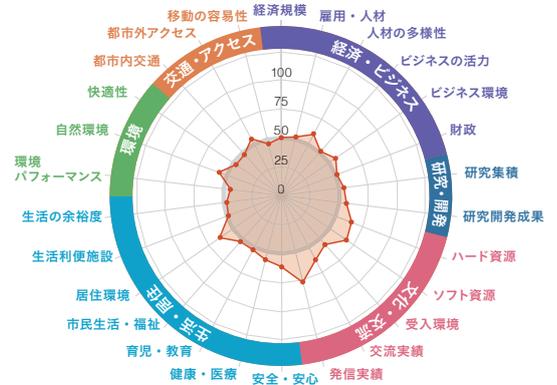
文化を育む土壌と住みやすさ備え合わせた城下町

市内の広範なエリアが文化財保護法にもつくく重要文化的景観に位置づけられている金沢市は、文化・交流の「ハード資源」における景観まちづくりへの積極度や、「ソフト資源」の文化・歴史・伝統への接触機会、「交流実績」の行楽・観光目的の訪問の多さ、「発信実績」の魅力度・認知度・観光意欲度といった指標で高い評価を得ている。また、生活・居住の評価も高く、中でも「居住環境」や「安全・安心」といった指標グループで高評価を得た。金沢市は、歴史や文化に彩られた観光都市としての魅力と、生活する上での魅力を併せ持った都市であることがわかる。

分野別の順位・偏差値



指標グループ別の偏差値



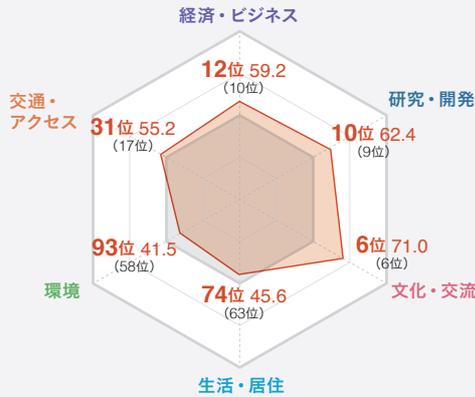
9 札幌市

SAPPORO

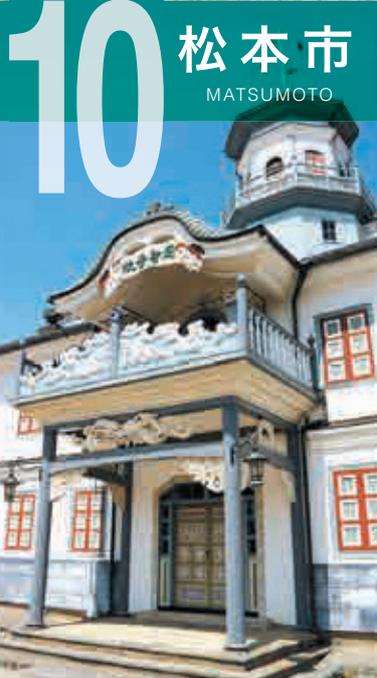
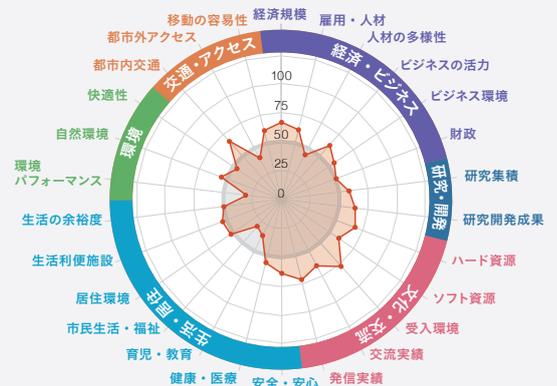
文化観光で魅力を発揮する北海道の中心都市

日本有数の観光地である札幌市は、文化・交流で強みをみせ、5つの指標グループの全てにおいて高評価を得た。特に高級宿泊施設客室数やイベントホール数が多いことから「受入環境」が整っていることがわかる。魅力度・認知度・観光意欲度は対象109都市の中で最も高い評価を得た。文化・交流に次いで高評価となったのは研究・開発で、「研究開発成果」で安定した強みをみせた。北海道の中心都市として、経済・ビジネスでも高スコアを得ており、特に付加価値額と地域内総支出、従業者数の指標は高水準であり、「経済規模」の大きさと「雇用・人材」の豊富さが札幌市の経済の強みとして挙げられる。

分野別の順位・偏差値



指標グループ別の偏差値



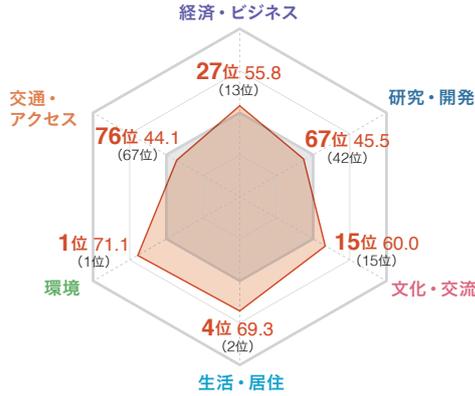
10 松本市

MATSUMOTO

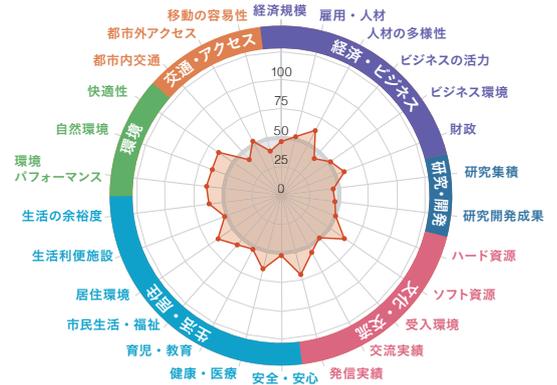
自然豊かな居住環境と文化的な魅力を有する都市

松本市は、環境および生活・居住において高い評価を得ている。特に環境については、対象109都市の中で最も高い評価を誇り、CO₂排出量の少なさや、自然環境の満足度が高評価となっている。生活・居住においては「健康・医療」における平均寿命・健康寿命や、「居住環境」における住宅のバリアフリー化率で高評価を得ている。また、国宝松本城や国宝旧開智学校などを持っている松本市は、文化・交流における観光客誘致活動や文化・歴史・伝統への接触機会といった指標で高い評価を得た。松本市は恵まれた自然環境と優れた居住環境に加えて、歴史・文化的な魅力もあふれていることがうかがえる。

分野別の順位・偏差値



指標グループ別の偏差値



11 つくば市

TSUKUBA



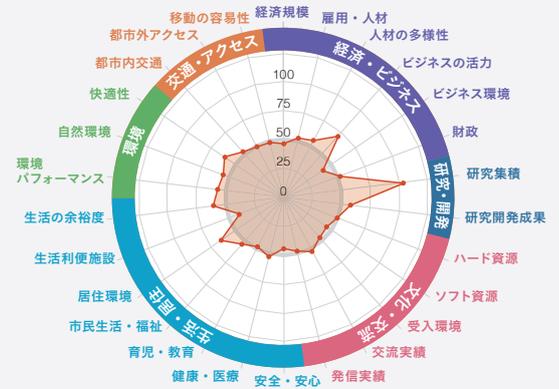
筑波研究学園都市を有する緑豊かなサイエンスシティ

高水準な研究・教育機関が集積するつくば市は、**研究・開発**で高い評価を得ており、とくに「研究集積」における学術・開発研究機関従業者割合は突出して高い水準である。また、**経済・ビジネス**における「ビジネスの活力」の評価も高く、中でも新規設立法人登記割合で高いスコアを得た。また、**生活・居住**の「生活の余裕度」、「居住環境」が良好であることや、**環境**の「快適性」の評価も高いことから、暮らしやすい都市であることがうかがえる。つくば市は、優良な研究機関を多く有するという独自性に加えて、居住性も備え合わせた都市であることがわかる。

分野別の順位・偏差値



指標グループ別の偏差値



12 浜松市

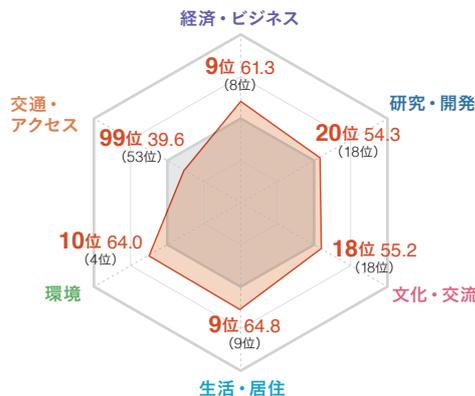
HAMAMATSU



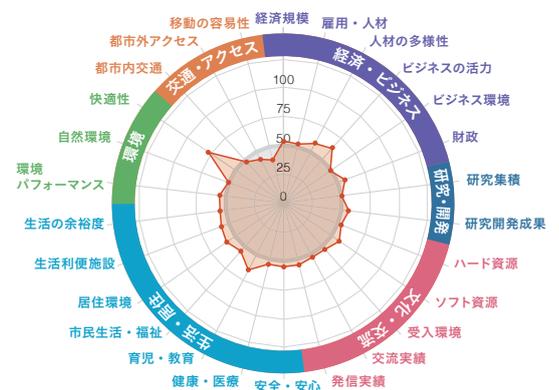
活力と住みやすさを兼ね備えたユニークな都市

経済・ビジネスと**生活・居住**の2つの分野で強さをみせた浜松市は、経済力と居住性を兼ね備えた都市といえる。**経済・ビジネス**では特区制度認定地域数で、**生活・居住**では保育ニーズの充足度で高評価を得ている。**環境**の評価も高く、年間日照時間が対象都市の中で最も長い「快適性」が突出している。その他にも、グローバルニッチトップ企業数や特区制度認定地域数が比較的高評価である。先端技術産業が集積していることや、政策によってもものづくりが支援されていることがうかがえ、浜松市は固有の産業の強みを活かしたバイタリティのある都市といえる。

分野別の順位・偏差値



指標グループ別の偏差値



13 豊田市

TOYOTA



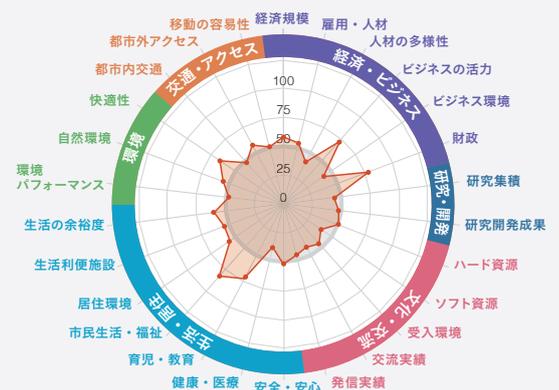
強固な経済基盤を有する住みよいまち

豊田市は**生活・居住**、**経済・ビジネス**の2つの分野で非常に高い評価を得ており、その水準は合計スコアの上位都市にも引けを取らない。なかでも**生活・居住**における、「育児・教育」や「市民生活・福祉」のスコアが高いが、これは保育ニーズの充足度や、子供の医療費支援、地域包括支援センターの多さ、要支援・要介護高齢者の少なさなどの指標で高い評価を得たためである。また、**経済・ビジネス**における財政力指数や経常収支比率の低さ、将来負担比率といった「財政」の評価が抜きんできており、労働生産性の評価も非常に高い。強固な経済基盤と、住民としての暮らしやすさを兼ね備えていることがわかる。

分野別の順位・偏差値



指標グループ別の偏差値



11 広島市

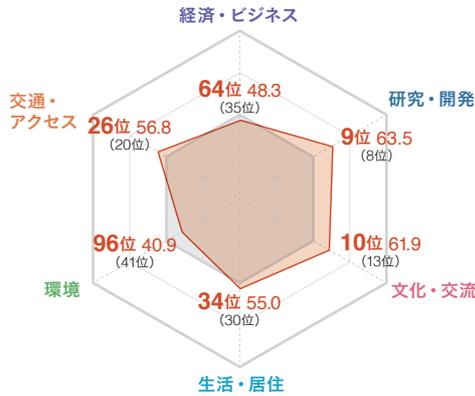
HIROSHIMA



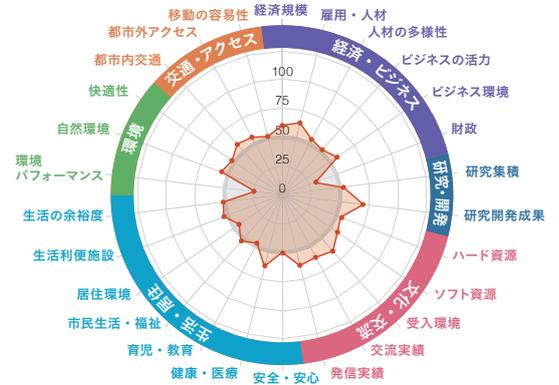
世界中から観光客を惹きつける平和都市

〈国際平和文化都市〉を都市像として掲げている広島市は、**文化・交流**で高い評価を得た。観光案内所・病院の多言語対応が進んでいるなど「受入環境」で高スコアを得ていることがその一因にあげられる。被爆地ヒロシマとしての知名度を用いたPR活動だけでなく、広島・宮島・岩国・瀬戸内・松山などのエリアと併せた広域ツーリズムも推進しており、観光客誘致活動で優れた評価となった。**研究・開発**は、グローバルニッチトップ企業数の多さから「研究開発成果」で強さをみせた。**交通・アクセス**も良好であり、**生活・居住**でも安定した評価を得ていることから、暮らしやすく利便性の高い都市であるといえる。

分野別の順位・偏差値



指標グループ別の偏差値



15 静岡市

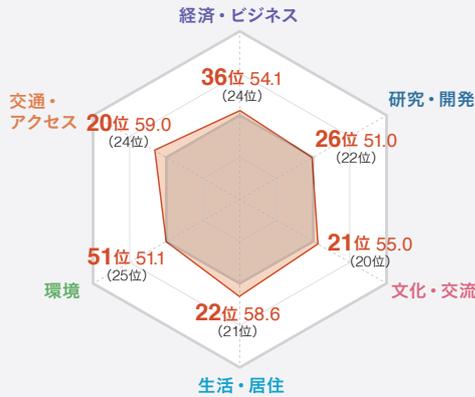
SHIZUOKA



都市が持つ個性を用いて存在感を強める都市

〈世界に輝く静岡〉をまちづくりの目標に掲げる静岡市は、6分野すべてにおいて非常にバランスよく評価を得ている都市である。〈歴史文化のまち〉を都市像の一つに据えており、このことを物語るように、**文化・交流**の「ハード資源」、「ソフト資源」において高い評価を得ている。また、**環境**の「快適性」が高評価となっていることに加えて、**生活・居住**における「育児・教育」や「生活の余裕度」なども平均を上回る評価を得ている。総合的なバランスの良さに加えて、文化的な魅力や自然環境の快適性という個性を有する都市であることがわかる。

分野別の順位・偏差値



指標グループ別の偏差値



16 熊本市

KUMAMOTO



安心して暮らせる居住性と観光都市としての魅力を有する都市

目指すまちの姿として〈上質な生活都市〉を掲げる熊本市は、**生活・居住**で非常に高い評価を得ていることから、住みやすい都市としての魅力を有していることがわかる。特に病院・診療所の多さなどの指標で構成される「健康・医療」が卓越している。「安全・安心」における刑法犯認知件数の少なさは、対象109都市の中で最も高い評価を得ており、安心して暮らせるまちづくりが進んでいることがうかがえる。また、**文化・交流**では、全ての指標グループの評価が平均を超えているが、特に「発信実績」における魅力度・認知度・観光意欲度が高いことから、観光地としての魅力も有していることがわかる。

分野別の順位・偏差値



指標グループ別の偏差値





文化・交流

順位	都市名	スコア	順位	都市名	スコア
1	京都市	345.3	36	高知市	91.7
2	大阪市	294.8	37	水戸市	90.9
3	横浜市	252.6	38	釧路市	90.5
4	神戸市	224.7	39	岡山市	90.3
5	福岡市	208.9	40	旭川市	89.1
6	札幌市	200.7	41	下関市	88.3
7	金沢市	185.5	42	新潟市	87.7
8	名古屋市	157.8	43	甲府市	87.0
9	那覇市	157.6	44	宮崎市	86.2
10	広島市	152.5	45	立川市	84.9
11	長崎市	150.9	46	鳥取市	83.5
12	仙台市	148.0	47	福島市	83.5
13	奈良市	146.7	48	さいたま市	83.4
14	函館市	144.6	49	和歌山市	82.5
15	松本市	142.5	50	大津市	80.7
16	鎌倉市	139.4			
17	倉敷市	118.2			
18	浜松市	116.8			
19	長野市	116.6			
20	高松市	116.1			
21	静岡市	116.0			
22	姫路市	114.4			
23	熊本市	113.0			
24	北九州市	110.9			
25	鹿児島市	106.2			
26	出雲市	106.0			
27	松山市	105.9			
28	盛岡市	102.1			
29	千葉市	99.6			
30	松江市	97.4			
31	川越市	96.7			
32	小田原市	96.1			
33	富山市	95.8			
34	弘前市	95.3			
35	佐世保市	93.6			
			51	苦小牧市,青森市,八戸市,秋田市,山形市,郡山市,いわき市,日立市,つくば市,宇都宮市,前橋市,高崎市,伊勢崎市,太田市,熊谷市,柏市,市原市,八王子市,府中市,町田市,川崎市,相模原市,横須賀市,平塚市,藤沢市,厚木市,長岡市,上越市,高岡市,福井市,岐阜市,沼津市,富士市,豊橋市,岡崎市,春日井市,豊川市,豊田市,安城市,津市,四日市市,鈴鹿市,堺市,岸和田市,吹田市,茨木市,八尾市,東大阪市,尼崎市,西宮市,伊丹市,呉市,福山市,東広島市,山口市,徳島市,久留米市,佐賀市,大分市	
			109		

(市区町村コード順)



生活・居住

順位	都市名	スコア	順位	都市名	スコア
1	豊田市	371.1	36	岡山市	317.0
2	仙台市	365.8	37	高岡市	316.4
3	熊本市	364.9	38	藤沢市	315.7
4	松本市	359.6	39	西宮市	315.2
5	安城市	355.2	40	郡山市	314.8
6	福岡市	354.0	41	北九州市	313.9
7	高崎市	352.9	42	沼津市	313.8
8	山形市	348.0	43	太田市	313.1
9	浜松市	346.5	44	さいたま市	311.3
10	岡崎市	345.4	45	横浜市	311.1
11	豊橋市	343.0	46	豊川市	310.9
12	出雲市	337.9	47	那覇市	310.2
13	金沢市	335.7	48	東広島市	308.6
14	富山市	335.6	49	長岡市	307.2
15	長野市	335.3	50	柏市	306.4
16	佐賀市	335.3			
17	福井市	333.4			
18	奈良市	330.4			
19	前橋市	330.2			
20	名古屋市	329.9			
21	甲府市	329.2			
22	静岡市	328.7			
23	福島市	327.5			
24	神戸市	325.4			
25	つくば市	325.0			
26	吹田市	324.6			
27	宮崎市	322.3			
28	久留米市	321.8			
29	鹿児島市	321.1			
30	大分市	320.8			
31	京都市	320.1			
32	岐阜市	319.2			
33	春日井市	318.6			
34	広島市	318.5			
35	宇都宮市	317.9			
			51	札幌市,函館市,旭川市,釧路市,苦小牧市,青森市,弘前市,八戸市,盛岡市,秋田市,いわき市,水戸市,日立市,伊勢崎市,川越市,熊谷市,千葉市,市原市,八王子市,立川市,府中市,町田市,川崎市,相模原市,横須賀市,平塚市,鎌倉市,小田原市,厚木市,新潟市,上越市,富士市,津市,四日市市,鈴鹿市,大津市,大阪市,堺市,岸和田市,茨木市,八尾市,東大阪市,姫路市,尼崎市,伊丹市,和歌山市,鳥取市,松江市,倉敷市,呉市,福山市,下関市,山口市,徳島市,高松市,松山市,高知市,長崎市,佐世保市	
			109		

(市区町村コード順)

109都市
分野別スコア

分野別スコア

Function-Specific Scores



環境

順位	都市名	スコア	順位	都市名	スコア
1	松本市	188.6	36	鈴鹿市	154.7
2	山口市	181.0	37	伊勢崎市	153.9
3	前橋市	178.8	38	八王子市	153.7
4	宮崎市	178.7	39	岐阜市	153.6
5	高知市	176.7	40	大津市	152.1
6	出雲市	175.7	41	新潟市	152.1
7	豊橋市	175.2	42	鹿児島市	151.8
8	下関市	175.2	43	奈良市	151.7
9	津市	175.0	44	上越市	151.3
10	浜松市	174.5	45	釧路市	151.0
11	鳥取市	171.9	46	長崎市	149.9
12	呉市	170.8	47	秋田市	149.8
13	いわき市	170.4	48	岡山市	149.7
14	松江市	169.7	49	熊本市	149.7
15	つくば市	168.9	50	苫小牧市	149.4
16	鎌倉市	166.0			
17	東広島市	164.8		札幌市,函館市,旭川市,青森市,	
18	佐賀市	164.8		弘前市,八戸市,盛岡市,仙台市,	
19	豊田市	162.7		山形市,福島市,郡山市,宇都宮市,	
20	横須賀市	162.5		さいたま市,川崎市,熊谷市,千葉市,	
21	小田原市	161.8		柏市,市原市,立川市,府中市,	
22	高崎市	161.3		町田市,横浜市,川崎市,相模原市,	
23	日立市	161.3		平塚市,藤沢市,厚木市,長岡市,	
24	豊川市	160.3		高岡市,金沢市,福井市,静岡市,	
25	松山市	160.1		富土市,名古屋市,岡崎市,春日井市,	
26	長野市	160.0		安城市,四日市市,京都市,大阪市,	
27	佐世保市	160.0		堺市,岸和田市,吹田市,茨木市,	
28	徳島市	159.2		八尾市,東大阪市,神戸市,姫路市,	
29	富山市	159.0		尼崎市,西宮市,伊丹市,和歌山市,	
30	大分市	157.3		倉敷市,広島市,福山市,北九州市,	
31	沼津市	156.6		福岡市,久留米市,那覇市	
32	水戸市	156.3			
33	太田市	156.0			
34	高松市	155.6			
35	甲府市	155.0			

(市区町村コード順)



交通・アクセス

順位	都市名	スコア	順位	都市名	スコア
1	大阪市	212.6	36	新潟市	141.7
2	名古屋市	202.4	37	さいたま市	140.4
3	福岡市	193.5	38	岐阜市	139.0
4	伊丹市	176.1	39	日立市	137.6
5	横浜市	170.8	40	安城市	137.6
6	尼崎市	169.8	41	久留米市	135.6
7	吹田市	167.5	42	沼津市	135.1
8	神戸市	167.1	43	盛岡市	134.8
9	川崎市	167.0	44	四日市市	134.7
10	北九州市	166.5	45	苫小牧市	133.4
11	仙台市	166.1	46	金沢市	133.2
12	西宮市	163.8	47	つくば市	133.2
13	茨木市	160.7	48	青森市	133.1
14	千葉市	159.8	49	秋田市	132.4
15	堺市	158.3	50	町田市	132.3
16	岸和田市	157.3			
17	府中市	155.7		旭川市,釧路市,弘前市,八戸市,	
18	東大阪市	155.0		山形市,福島市,郡山市,いわき市,	
19	那覇市	154.3		水戸市,宇都宮市,前橋市,高崎市,	
20	静岡市	153.7		伊勢崎市,太田市,川崎市,熊谷市,	
21	函館市	153.4		柏市,八王子市,相模原市,鎌倉市,	
22	京都市	152.8		小田原市,長岡市,上越市,富山市,	
23	立川市	152.7		高岡市,福井市,甲府市,長野市,	
24	横須賀市	151.4		松本市,浜松市,富士市,豊橋市,	
25	鹿児島市	149.0		岡崎市,豊川市,津市,鈴鹿市,	
26	広島市	148.6		大津市,姫路市,和歌山市,鳥取市,	
27	平塚市	147.9		松江市,出雲市,岡山市,倉敷市,	
28	藤沢市	145.4		呉市,福山市,東広島市,下関市,	
29	春日井市	145.2		山口市,徳島市,高松市,松山市,	
30	八尾市	145.2		高知市,佐賀市,長崎市,佐世保市,	
31	札幌市	145.0		熊本市,大分市,宮崎市	
32	厚木市	144.0			
33	奈良市	143.5			
34	市原市	143.0			
35	豊田市	141.9			

(市区町村コード順)

アクター別スコア

Actor-Specific Scores

分野別に加え、都市の特性を「人」の視点で評価するために、本調査では、「アクター」(シングル、ファミリー、シニア、観光客、経営者、従業者)を6設定した。アクター別スコア算出のために、まずは、各アクターが都市に求めるニーズを設定し、次に、83指標の中からそのニーズに対応した指標を抽出し、その平均値をスコアとした。



シングル 指標数20/83

順位	都市名	スコア	順位	都市名	スコア
1	福岡市	53.8	36	鈴鹿市	42.7
2	名古屋市	52.0	37	鳥取市	42.6
3	熊本市	49.4	38	大分市	42.5
4	大阪市	49.2	39	長野市	42.3
5	仙台市	48.4	40	堺市	42.3
6	北九州市	48.2	41	出雲市	42.2
7	神戸市	47.6	42	つくば市	42.2
8	静岡市	47.2	43	茨木市	42.1
9	松本市	46.8	44	山口市	42.1
10	鹿児島市	46.5	45	藤沢市	42.1
11	宮崎市	45.9	46	新潟市	42.1
12	広島市	45.9	47	札幌市	42.1
13	奈良市	45.4	48	春日井市	41.9
14	那覇市	45.4	49	豊川市	41.8
15	函館市	45.2	50	岡崎市	41.8
16	浜松市	45.2			
17	豊田市	45.1		旭川市,釧路市,苫小牧市,青森市,	
18	吹田市	45.1		弘前市,八戸市,秋田市,山形市,	
19	京都市	45.0		福島市,郡山市,いわき市,水戸市,	
20	岡山市	45.0		日立市,宇都宮市,前橋市,伊勢	
21	松山市	44.9		崎市,太田市,さいたま市,川崎市,	
22	甲府市	44.5		熊谷市,千葉市,柏市,市原市,	
23	横浜市	44.2		八王子市,立川市,府中市,町田市,	
24	東広島市	44.2		川崎市,相模原市,横須賀市,	
25	西宮市	44.1		平塚市,鎌倉市,小田原市,厚木市,	
26	金沢市	43.9	51	長岡市,上越市,富山市,高岡市,	
27	久留米市	43.8	109	福井市,沼津市,富士市,安城市,	
28	佐賀市	43.8		四日市市,大津市,岸和田市,	
29	豊橋市	43.5		八尾市,東大阪市,姫路市,尼崎市,	
30	盛岡市	43.1		和歌山市,松江市,倉敷市,呉市,	
31	岐阜市	43.0		福山市,下関市,徳島市,高知市,	
32	高松市	43.0		長崎市,佐世保市	
33	伊丹市	42.9			
34	津市	42.9			
35	高崎市	42.8			

(市区町村コード順)



ファミリー 指標数38/83

順位	都市名	スコア	順位	都市名	スコア
1	福岡市	53.3	36	岡山市	45.2
2	仙台市	51.4	37	盛岡市	45.2
3	松本市	49.7	38	長野市	45.2
4	熊本市	49.3	39	甲府市	45.2
5	つくば市	49.0	40	秋田市	45.1
6	北九州市	49.0	41	水戸市	45.1
7	鹿児島市	48.9	42	津市	45.1
8	豊田市	48.5	43	新潟市	45.0
9	名古屋市	48.3	44	豊川市	45.0
10	出雲市	48.3	45	茨木市	44.8
11	神戸市	48.3	46	春日井市	44.7
12	浜松市	48.0	47	横浜市	44.7
13	静岡市	47.9	48	山形市	44.7
14	富山市	47.9	49	弘前市	44.6
15	岐阜市	47.7	50	高知市	44.6
16	前橋市	47.7			
17	金沢市	47.6		札幌市,旭川市,釧路市,苫小牧市,	
18	豊橋市	47.4		青森市,八戸市,福島市,郡山市,	
19	久留米市	47.3		いわき市,日立市,宇都宮市,伊勢	
20	宮崎市	47.0		崎市,太田市,さいたま市,川崎市,	
21	奈良市	46.9		熊谷市,千葉市,柏市,市原市,	
22	鳥取市	46.7		八王子市,立川市,府中市,町田市,	
23	松江市	46.6		川崎市,相模原市,横須賀市,	
24	高松市	46.3		平塚市,鎌倉市,藤沢市,小田原市,	
25	西宮市	46.2	51	厚木市,長岡市,上越市,高岡市,	
26	高崎市	46.2	109	福井市,沼津市,富士市,岡崎市,	
27	松山市	46.2		四日市市,鈴鹿市,大津市,堺市,	
28	京都市	46.1		岸和田市,吹田市,八尾市,東大	
29	函館市	46.0		阪市,姫路市,尼崎市,伊丹市,	
30	佐賀市	45.9		和歌山市,倉敷市,広島市,呉市,	
31	那覇市	45.8		福山市,下関市,山口市,徳島市,	
32	長崎市	45.6		佐世保市,大分市	
33	東広島市	45.4			
34	安城市	45.3			
35	大阪市	45.3			

(市区町村コード順)



シニア 指標数34/83

順位	都市名	スコア	順位	都市名	スコア
1	仙台市	54.6	36	大分市	47.3
2	松本市	53.2	37	京都市	47.2
3	福岡市	53.1	38	沼津市	47.2
4	豊田市	52.0	39	広島市	47.1
5	宮崎市	51.1	40	札幌市	47.0
6	豊橋市	51.0	41	宇都宮市	46.9
7	高崎市	50.6	42	豊川市	46.9
8	熊本市	50.6	43	東広島市	46.8
9	浜松市	50.5	44	八王子市	46.7
10	西宮市	50.4	45	春日井市	46.6
11	出雲市	50.2	46	厚木市	46.6
12	前橋市	50.1	47	水戸市	46.5
13	吹田市	49.9	48	甲府市	46.5
14	静岡市	49.8	49	盛岡市	46.2
15	つくば市	49.3	50	松山市	46.2
16	神戸市	49.2			
17	金沢市	49.1			
18	藤沢市	49.0			
19	長崎市	49.0			
20	鹿児島市	48.8			
21	茨木市	48.8			
22	長野市	48.5			
23	富山市	48.4			
24	安城市	48.3			
25	奈良市	48.3			
26	那覇市	48.2			
27	北九州市	48.2			
28	岡崎市	47.9			
29	佐賀市	47.7			
30	府中市	47.7			
31	立川市	47.6			
32	岐阜市	47.5			
33	日立市	47.5			
34	松江市	47.4			
35	久留米市	47.3			

函館市,旭川市,釧路市,苫小牧市,青森市,弘前市,八戸市,秋田市,山形市,福島市,郡山市,いわき市,伊勢崎市,太田市,さいたま市,川越市,熊谷市,千葉市,柏市,市原市,町田市,横浜市,川崎市,相模原市,横須賀市,平塚市,鎌倉市,小田原市,新潟市,長岡市,上越市,高岡市,福井市,富士市,名古屋市長,津市,四日市市,鈴鹿市,大津市,大阪市,堺市,岸和田市,八尾市,東大阪市,姫路市,尼崎市,伊丹市,和歌山市,鳥取市,岡山市,倉敷市,呉市,福山市,下関市,山口市,徳島市,高松市,高知市,佐世保市

(市区町村コード順)



観光客 指標数32/83

順位	都市名	スコア	順位	都市名	スコア
1	京都市	54.4	36	つくば市	29.3
2	大阪市	52.8	37	大津市	29.2
3	横浜市	48.8	38	府中市	29.1
4	神戸市	46.1	39	八王子市	28.8
5	福岡市	46.0	40	川崎市	28.8
6	札幌市	40.9	41	宮崎市	28.8
7	名古屋市	38.8	42	高知市	28.7
8	金沢市	38.2	43	立川市	28.7
9	仙台市	37.6	44	西宮市	28.7
10	那覇市	37.2	45	佐世保市	28.6
11	広島市	37.1	46	豊田市	28.6
12	奈良市	36.2	47	弘前市	28.5
13	松本市	35.3	48	岐阜市	28.4
14	長崎市	35.3	49	久留米市	28.3
15	函館市	34.8	50	岡山市	28.3
16	鎌倉市	34.5			
17	静岡市	33.5			
18	北九州市	32.8			
19	鹿児島市	32.4			
20	浜松市	32.3			
21	千葉市	31.7			
22	出雲市	31.6			
23	高松市	31.6			
24	倉敷市	31.0			
25	熊本市	30.8			
26	長野市	30.7			
27	松江市	30.5			
28	盛岡市	30.1			
29	横須賀市	30.1			
30	松山市	30.0			
31	小田原市	29.9			
32	藤沢市	29.8			
33	姫路市	29.7			
34	新潟市	29.6			
35	富山市	29.5			

旭川市,釧路市,苫小牧市,青森市,八戸市,秋田市,山形市,福島市,郡山市,いわき市,水戸市,日立市,宇都宮市,前橋市,高崎市,伊勢崎市,太田市,さいたま市,川越市,熊谷市,柏市,市原市,町田市,相模原市,平塚市,厚木市,長岡市,上越市,高岡市,福井市,甲府市,沼津市,富士市,豊橋市,岡崎市,春日井市,豊川市,安城市,津市,四日市市,鈴鹿市,堺市,岸和田市,吹田市,茨木市,八尾市,東大阪市,尼崎市,伊丹市,和歌山市,鳥取市,岡山市,呉市,福山市,東広島市,下関市,山口市,徳島市,佐賀市,大分市

(市区町村コード順)

109都市
アクター別スコア

合計スコアの上位3区について、分野別および指標グループ別レーダーチャート（偏差値は東京23区内で算出）を用いてそれぞれの強みや魅力を分析した。

千代田区

CHIYODA-CITY

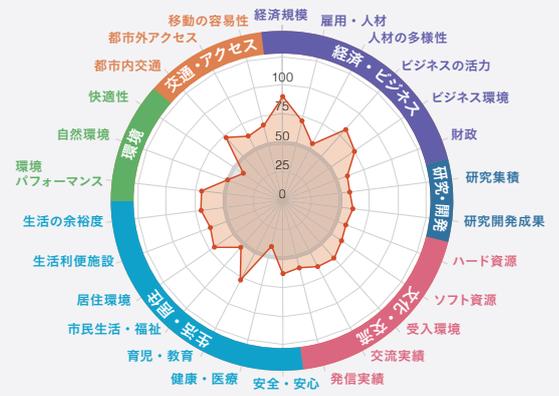
幅広い分野で評価の高い東京の中心都市

文化・芸術、産業、交通、省庁などの多様な機能が高度に集積する千代田区は、環境以外の5分野において非常に高い評価を得た。特に、**経済・ビジネス**および**生活・居住、交通・アクセス**は、対象23区の中で最も評価が高い。また、**文化・交流**の評価も高く、特に、高級宿泊施設客室数やイベントホール数、国際会議・展示会開催件数といった指標の評価が高い。歴史に育まれた豊かな都心環境を有する千代田区は、さまざまな魅力に満ちあふれていることが分かる。

分野別の順位・偏差値



指標グループ別の偏差値



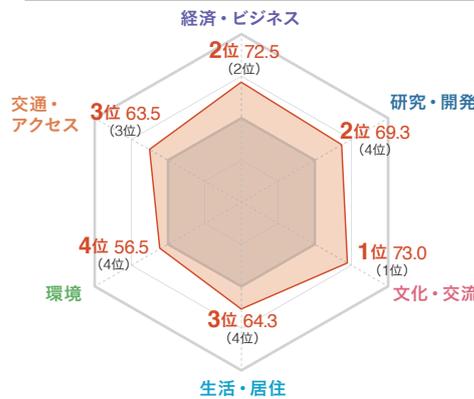
港区

MINATO-CITY

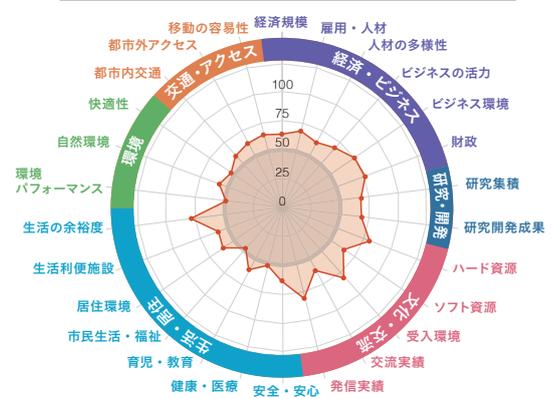
文化、経済を中心に多くの分野で進化を続けるバランス型都市

港区は、すべての分野において高い評価を得ている。**経済・ビジネス、文化・交流**では突出した強みを有しながらも、**研究・開発**や**生活・居住**でも評価を上げている。なかでも**文化・交流**の「ハード資源」、「受入環境」、「発信実績」の指標は特に高い評価であり、港区が目指す「世界にひらかれた国際的なまち」として、豊富な観光資源を活かしていることがうかがえる。さらに**生活・居住**の「生活の余裕度」においても高いスコアを得ており、高水準での総合力の高さが魅力である。

分野別の順位・偏差値



指標グループ別の偏差値



中央区

CHUO-CITY

交通利便性と居住環境が強みの活気あふれる街

中央区は、**交通・アクセス**をはじめ、**生活・居住、環境**、そして**経済・ビジネス**といった多くの分野において高い評価を得た。**生活・居住**の「居住環境」や「生活利便施設」の指標で高いスコアを得るとともに、都心3区の中で最も評価の高い**環境**では、「環境パフォーマンス」におけるEV充電スタンドの多さや、「自然環境」における水辺の充実度が高いスコアを獲得している。都心に位置しながらも、利便性だけでなく、豊かな自然環境も兼ね備えた住みやすい都市であることがわかる。

分野別の順位・偏差値



指標グループ別の偏差値



分野別スコア

Function-Specific Scores



経済・ビジネス

順位	都市名	スコア
1	千代田区	436.2
2	港区	395.4
3	中央区	348.9
4	渋谷区	297.6
5	新宿区	282.5
6	品川区	237.6
7	豊島区	230.3
8	目黒区	229.3
9	文京区	221.7
10	台東区	215.8
11	江東区	214.3
12	中野区	204.8
13	世田谷区	197.5
14	杉並区	193.2
15	荒川区	186.2
16 23	墨田区, 大田区, 北区, 板橋区, 練馬区, 足立区, 葛飾区, 江戸川区 (市区町村コード順)	



研究・開発

順位	都市名	スコア
1	文京区	105.2
2	港区	70.3
3	新宿区	63.2
4	千代田区	46.1
5	目黒区	32.6
6	中央区	23.2
7	世田谷区	15.6
8	豊島区	13.0
9	渋谷区	12.3
10	大田区	10.9
11	江東区	10.1
12	品川区	8.5
13	板橋区	8.2
14	葛飾区	6.6
15	中野区	4.7
16 23	台東区, 墨田区, 杉並区, 北区, 荒川区, 練馬区, 足立区, 江戸川区 (市区町村コード順)	



文化・交流

順位	都市名	スコア
1	港区	241.8
2	千代田区	197.8
3	新宿区	183.9
4	渋谷区	182.1
5	台東区	169.8
6	江東区	168.0
7	中央区	154.5
8	文京区	145.0
9	墨田区	129.9
10	豊島区	122.8
11	品川区	119.5
12	世田谷区	94.2
13	目黒区	90.7
14	大田区	79.3
15	葛飾区	78.6
16 23	中野区, 杉並区, 北区, 荒川区, 板橋区, 練馬区, 足立区, 江戸川区 (市区町村コード順)	



生活・居住

順位	都市名	スコア
1	千代田区	403.2
2	中央区	390.7
3	港区	365.8
4	渋谷区	355.8
5	文京区	351.7
6	新宿区	341.7
7	世田谷区	308.4
8	豊島区	304.3
9	杉並区	303.0
10	目黒区	300.2
11	台東区	297.0
12	板橋区	291.2
13	品川区	288.5
14	江東区	284.9
15	荒川区	284.5
16 23	墨田区, 大田区, 中野区, 北区, 練馬区, 足立区, 葛飾区, 江戸川区 (市区町村コード順)	



環境

順位	都市名	スコア
1	江東区	140.9
2	中央区	124.9
3	江戸川区	123.5
4	港区	112.6
5	練馬区	110.8
6	葛飾区	108.8
7	墨田区	108.1
8	杉並区	107.2
9	千代田区	107.1
10	大田区	106.8
11	品川区	106.7
12	荒川区	103.6
13	世田谷区	103.6
14	北区	101.6
15	文京区	99.3
16 23	新宿区, 台東区, 目黒区, 渋谷区, 中野区, 豊島区, 板橋区, 足立区 (市区町村コード順)	



交通・アクセス

順位	都市名	スコア
1	千代田区	221.5
2	中央区	219.7
3	港区	208.2
4	渋谷区	205.4
5	品川区	198.7
6	新宿区	194.7
7	台東区	193.1
8	文京区	192.7
9	江東区	189.4
10	豊島区	188.8
11	目黒区	185.6
12	大田区	181.6
13	江戸川区	178.1
14	墨田区	174.4
15	荒川区	174.0
16 23	世田谷区, 中野区, 杉並区, 北区, 板橋区, 練馬区, 足立区, 葛飾区 (市区町村コード順)	

合計スコア

順位	都市名	スコア
1	千代田区	1,412.0
2	港区	1,394.1
3	中央区	1,261.8
4	新宿区	1,156.7
5	渋谷区	1,142.4
6	文京区	1,115.6
7	江東区	1,007.5
8	台東区	971.7
9	品川区	959.6
10	豊島区	935.0
11	目黒区	931.0
12	世田谷区	890.2
13	墨田区	877.4
14	杉並区	840.4
15	大田区	834.8
16 23	中野区, 北区, 荒川区, 板橋区, 練馬区, 足立区, 葛飾区, 江戸川区 (市区町村コード順)	

アクター別スコア

Actor-Specific Scores

分野別に加え、都市の特性を「人」の視点で評価するために、本調査では「アクター」(シングル、ファミリー、シニア、観光客、経営者、従業者)を6設定した。アクター別スコアの算出のために、まずは各アクターが都市に求めるニーズを設定し、次に、83指標の中からそのニーズに対応した指標を抽出し、その平均値をスコアとした。



シングル 指標数20/83

順位	都市名	スコア
1	中央区	63.6
2	千代田区	63.3
3	港区	58.4
4	渋谷区	54.5
5	新宿区	51.5
6	文京区	51.2
7	台東区	49.5
8	品川区	48.5
9	豊島区	48.5
10	目黒区	47.7
11	杉並区	44.6
12	世田谷区	44.4
13	江東区	42.6
14	荒川区	42.3
15	墨田区	42.3
16 } 23	大田区, 中野区, 北区, 板橋区, 練馬区, 足立区, 葛飾区, 江戸川区 (市区町村コード順)	



ファミリー 指標数38/83

順位	都市名	スコア
1	中央区	55.4
2	千代田区	54.4
3	港区	53.4
4	渋谷区	49.4
5	文京区	49.3
6	新宿区	48.5
7	品川区	46.3
8	江東区	45.8
9	目黒区	45.8
10	台東区	44.9
11	世田谷区	44.6
12	杉並区	44.4
13	豊島区	44.0
14	墨田区	42.7
15	大田区	42.5
16 } 23	中野区, 北区, 荒川区, 板橋区, 練馬区, 足立区, 葛飾区, 江戸川区 (市区町村コード順)	



シニア 指標数34/83

順位	都市名	スコア
1	中央区	59.5
2	千代田区	59.4
3	港区	56.3
4	文京区	54.9
5	渋谷区	53.7
6	新宿区	51.5
7	江東区	49.6
8	目黒区	49.1
9	台東区	48.8
10	品川区	48.7
11	杉並区	47.9
12	世田谷区	47.5
13	豊島区	46.6
14	墨田区	46.6
15	荒川区	46.2
16 } 23	大田区, 中野区, 北区, 板橋区, 練馬区, 足立区, 葛飾区, 江戸川区 (市区町村コード順)	



観光客 指標数32/83

順位	都市名	スコア
1	港区	51.6
2	千代田区	47.9
3	中央区	47.4
4	新宿区	42.2
5	渋谷区	42.1
6	江東区	41.7
7	台東区	41.0
8	文京区	37.6
9	品川区	36.0
10	墨田区	34.1
11	豊島区	32.8
12	目黒区	31.0
13	世田谷区	30.7
14	大田区	29.5
15	江戸川区	29.4
16 } 23	中野区, 杉並区, 北区, 荒川区, 板橋区, 練馬区, 足立区, 葛飾区 (市区町村コード順)	



経営者 指標数34/83

順位	都市名	スコア
1	千代田区	65.6
2	港区	61.8
3	中央区	54.5
4	渋谷区	47.0
5	新宿区	46.2
6	文京区	41.2
7	品川区	39.6
8	江東区	38.9
9	目黒区	38.3
10	豊島区	38.1
11	台東区	36.2
12	中野区	33.6
13	世田谷区	33.2
14	大田区	32.2
15	杉並区	32.1
16 } 23	墨田区, 北区, 荒川区, 板橋区, 練馬区, 足立区, 葛飾区, 江戸川区 (市区町村コード順)	



従業者 指標数17/83

順位	都市名	スコア
1	中央区	69.8
2	千代田区	66.2
3	港区	61.7
4	渋谷区	55.8
5	新宿区	55.3
6	台東区	53.0
7	豊島区	50.1
8	品川区	46.0
9	文京区	44.1
10	目黒区	43.8
11	墨田区	42.1
12	荒川区	42.0
13	中野区	39.7
14	江東区	39.6
15	大田区	37.6
16 } 23	世田谷区, 杉並区, 北区, 板橋区, 練馬区, 足立区, 葛飾区, 江戸川区 (市区町村コード順)	

指標の定義

Definitions of Indicators

指標は、統計資料などにもとづく定量データ（計79指標）および森記念財団が実施した居住者アンケート（計4指標）を用いて設定した。データの取得方法の概要は以下の(1)および(2)の通りである。

(1) 統計資料などにもとづく定量データ（計79指標）

- ・可能な限り、公的な統計資料からデータを取得する
- ・公的な統計によらないデータについては、出典が明確なものを採用する
- ・データの取得期間は、2020年1月～4月

(2) 居住者アンケート（計4指標）

- ・調査方法：インターネット調査
- ・回答者：20歳以上の対象132都市の居住者
- ・有効回収数：計39,600人（各都市300人）。男女比は1:1、年代は20歳～59歳と60歳以上の比率を概ね6:4とした。
- ・調査時期：2020年3月
- ・調査項目：回答者が居住する都市に対する満足度など、6項目について4段階評価で回答
- ・調査実施会社：株式会社サーベイリサーチセンター

分野	指標グループ	No.	指標名	定義
経済・ビジネス	経済規模	1	付加価値額	経済産業省・内閣官房「RESAS(地域経済分析システム)」における「付加価値額(企業単位)」(出典:総務省・経済産業省「経済センサス-活動調査」再編加工)。
		2	地域内総支出	経済産業省・内閣官房「RESAS(地域経済分析システム)」における「総支出(地域内ベース)」(出典:環境省「地域産業連関表」「地域経済計算」)。区別の総支出が公表されていない東京都23区に関しては、総務省統計局「平成27年国勢調査結果」の「人口等基本集計」における人口と「平成28年経済センサス-活動調査」における「従業者数」(A～R 全産業(S公務を除く))を合計した値を23区と各区で算出し、その比率で按分して推計した値。
		3	昼夜間人口比率	総務省統計局「平成27年国勢調査結果」における昼夜間人口比率(従業地・通学地による人口を常住地による人口で除した割合)。
	雇用・人材	4	従業者数	総務省統計局「平成28年経済センサス-活動調査結果」における「産業(大分類)、経営組織(4区分)別民間営事業所数、男女別従業者数および1事業所当たり従業者数一都道府県、市区町村」に掲載されている「従業者数」(A～R 全産業(S公務を除く))。
		5	賃金水準	総務省統計局「平成28年経済センサス-活動調査結果」における「給与総額」と「福利厚生費総額」の合計を「従業者数」(A～R 全産業(S公務を除く))で除して算出した値。
		6	高等教育修了者割合	総務省統計局「平成22年国勢調査結果」の「産業等基本集計(労働力状態、就業者の産業など)」に掲載されている高等教育修了者(「卒業生 短大・高专」「卒業生 大学・大学院」)を総務省統計局「平成27年国勢調査結果」の18歳以上人口で除した値。なお、専門学校卒業生はその修業年限によって、上記どちらかに区分される。
		7	若手人材の転入出	総務省統計局「平成17年国勢調査結果」における平成17年時点の高等教育機関へ入学する前の世代(15～19歳)の人口と、「平成27年国勢調査結果」における平成27年時点の高等教育を修了した世代(25～29歳)の人口の増減の比。
	人材の多様性	8	女性就業者割合	総務省統計局「平成27年国勢調査結果」の「就業状態等基本集計(労働力状態、就業者の産業・職業など)」に掲載されている15～64歳の女性就業者数を、同調査に掲載されている15～64歳総就業者数で除して算出した値。
		9	外国人就業者割合	総務省統計局「平成27年国勢調査結果」における「就業状態等基本集計(労働力状態、就業者の産業・職業など)」に掲載されている15歳以上外国人就業者数を、同調査の15歳以上の就業者数で除して算出した値。掲載がない都市は、各都道府県労働局に掲載されている数を用いて、該当局にも掲載がない都市は外国人人口を用いて推計した。
		10	高齢者就業率	総務省統計局「平成27年国勢調査結果」における「就業状態等基本集計(労働力状態、就業者の産業・職業など)」に掲載されている65歳以上就業者数を、同調査に掲載されている65歳以上人口で除して算出した値。
	ビジネスの活力	11	新規設立法人登記割合	国税庁「法人番号公表サイト」-「基本3情報ダウンロード」-「全件データのダウンロード(各都道府県別)」に記載されている2019年の一年間に新たに法人番号が指定された法人数を各都市の全法人数で除して算出した値。
		12	労働生産性	経済産業省・内閣官房「RESAS(地域経済分析システム)」における「付加価値額(企業単位)」(出典:総務省・経済産業省「経済センサス-活動調査」再編加工)を、総務省統計局の「平成28年経済センサス-活動調査結果」に掲載されている「事業所に関する集計」における「従業者数」(A～R 全産業(S公務を除く))で除して算出した値。
		13	特区制度認定地域数	内閣府地方創生推進事務局において「国家戦略特区」に認定された事業数および「総合特区」、「構造改革特区」の特区数をそれぞれ指数化し、合算した値。(なお、都道府県レベルで認定されたものは、0.5の重みづけを行った)。
	ビジネス環境	14	対事業所サービス従業者割合	総務省統計局「平成26年経済センサス-基礎調査結果」における「事業所に関する集計」に掲載されている「70 物品賃貸業」、「72 専門サービス業(他に分類されないもの)」、「73 広告業」の3分類に該当する従業者数を、「平成28年経済センサス-活動調査結果」に掲載されている「従業者数」(A～R 全産業(S公務を除く))で除して算出した割合。
		15	新規不動産業用建築物供給面積	国土交通省「建築着工統計調査報告(平成29～令和元年計分)」における「建築物:市区町村別、用途別(大分類)」のうちの「L 不動産業用建築物」の床面積の平均値。
		16	フレキシブル・ワークプレイス密度	次の2つの数値にもとづいてスコアを算出した:(1)総務省統計局「平成26年経済センサス-基礎調査結果」における「参考表4 産業(小分類)別全事業所数一全国、都道府県、市区町村」に掲載されている「喫茶店数」を市街化区域(用途地域面積を用いる)で除して数値化した値。(2)株式会社エググレイ「コワーキングジャパン」に掲載されているコワーキングスペース数を市街化区域(用途地域面積を用いる)で除して数値化した値。
	財政	17	財政力指数	総務省統計局「平成30年度市町村別決算状況調」に掲載されている「財政力指数」。東京都23区は、東京都総務局行政部「平成30年度 特別区普通会計決算」に掲載されている「財政力指数」。
		18	経常収支比率の低さ	総務省統計局「平成30年度市町村別決算状況調」に掲載されている「経常収支比率」。
		19	実質公債費比率の低さ	総務省統計局「平成30年度市町村別決算状況調」に掲載されている「実質公債費比率」。東京都23区は、東京都総務局行政部「平成30年度決算に基づく健全化判断比率」における「実質公債費比率」。
		20	将来負担比率の低さ	総務省統計局「平成30年度市町村別決算状況調」に掲載されている「将来負担比率」。東京都23区は、東京都総務局行政部「平成30年度決算に基づく健全化判断比率」における「将来負担比率」。

分野	指標グループ	No.	指標名	定義
研究・開発	研究集積	21	学術・開発研究機関従業者割合	総務省統計局「平成26年経済センサス-基礎調査 確報集計」における「事業所に関する集計」に掲載されている「学術・開発研究機関」の「従業者数」を、「従業者数」(A~R 全産業(S公務を除く))で除して算出した割合。
		22	トップ大学数	次の2つの数値にもとづいてスコアを算出した:(1)株式会社ベネッセコーポレーション「THE世界大学ランキング 日本版2019」における上位150の大学数を、その大学の順位で重みづけして指数化した値、および(2)Times Higher Education (THE) "World University Rankings2020"に掲載されている大学数を、その大学の順位で重みづけをして指数化した値。キャンパスが複数の都市に立地している場合は、(1)、(2)どちらの値もキャンパス数で除して、その数値を採用した。
	研究開発成果	23	論文投稿数	科学技術・学術政策研究所(NISTEP)の「研究論文に着目した日本の大学ベンチマーキング2015」に掲載されている「2004-2013年の10年間で1,000件以上の論文を産出した136大学」を対象に、国立情報学研究所の「CiNii Articles」で検索し表示される2016年、2017年、2018年の論文投稿数の平均値。キャンパスが複数の都市に立地している場合は、全論文数をキャンパス数で除して、その数値を採用した。
		24	グローバルニッチトップ企業数	経済産業省「グローバルニッチトップ企業100選(GNT企業100選)選定企業一覧」に掲載されている企業の本社、営業所、事業所などを合算した値。
文化・交流	ハード資源	25	観光地の数・評価	「トリップアドバイザー日本」の「観光」における「名所・観光スポット」、「自然・公園」、「アウトドア」、「美術館・博物館」、「動物園・水族館」、「レジャー施設」、「コンサート・ショー」、「遊園地・テーマパーク」の8カテゴリーの観光地数と口コミ数をそれぞれ指数化し合算した値。
		26	文化財指定件数	文化庁「国指定文化財等データベース」および「世界遺産(文化遺産)一覧」に掲載されている建造物、風景、特定のエリアに指定された文化財において、以下の通り文化財の種類に応じて重みづけをした値の合算値:世界遺産(3点)、国宝・特別名跡・特別名勝・重要伝統的建造物群保存地区(2点)、重要文化財・登録有形文化財(建造物)・登録記念物・史跡・名勝・重要文化的景観(1点)
		27	景観まちづくりへの積極度	次の2つの数値の合計値:(1)国土交通省「景観法の施行状況」に掲載されている、対象都市の「景観計画策定」の有無および「景観まちづくり刷新モデル地区」の指定有無(有りにつき1点)。(2)『都市景観の日』実行委員会による、平成23年度以降の「都市景観大賞『都市空間部門』『景観まちづくり活動・教育部門』および『景観づくり活動部門』」の各賞を受賞した地区または活動数、平成13年度~平成22年度の「都市景観大賞『美しいまちなみ賞』」の各賞を受賞した地区数、平成3年度~平成12年度の「都市景観100選」を受賞した受賞者数(1つにつき1点)。県が受賞したものは対象外とする。
	ソフト資源	28	イベントの数・評価	次の2つの数値にもとづいてスコアを算出した:(1)「トリップアドバイザー日本」の「観光」における「イベント」の数。(2)公益財団法人日本観光振興協会「miru-navi 全国観るナビ」記載の「全てのイベント(全国のイベント一覧)」に掲載されている「郷土芸能」「行・祭事」の数。
		29	クリエイティブ産業従業者割合	国際連合開発計画(UNDP)、国際連合教育科学文化機関(UNESCO)、および東京都産業労働局の報告書をもとに、独自に「クリエイティブ産業」を定義し、総務省統計局「平成28年経済センサス-活動調査結果」より相当する産業小分類44を抽出した。同調査「事業所に関する集計」に掲載されている当該44小分類の従業者数の合計を、同調査の「従業者数」(A~R全産業(S公務を除く))で除した算出した割合。
		30 Q	文化・歴史・伝統への接触機会	居住者アンケート「現在お住まいの都市は他の都市から訪れた人にとって、魅力的な文化(歴史、伝統、芸術、風習等)に接する機会が多いと思いますか?」の問いに対する回答をもとに算出した値。
	受入環境	31	宿泊施設客室数	株式会社リクルートライフスタイルの「じゃらん web サービス」に掲載されている宿泊施設の総客室数。
		32	高級宿泊施設客室数	株式会社リクルートライフスタイルの「じゃらん web サービス」に掲載されている宿泊施設のうち「ハイクラス」に区分される宿泊施設の客室総数。
		33	イベントホール数	文部科学省「平成30年度社会教育調査」における「劇場、音楽堂等」の数と、株式会社リクルートライフスタイルの「じゃらん web サービス」に掲載されている宿泊施設のうち宴会場のあるホテル数の合計値。
		34	観光案内所・病院の多言語対応	次の2つの数値にもとづいてスコアを算出した:(1)日本政府観光局(JNTO)「JNTO認定外国人観光案内所」に掲載されている観光案内所数を、その観光案内所の多言語対応や観光案内の提供範囲等で区分されたカテゴリーで重みづけをした値。(2)日本政府観光局(JNTO)「外国人旅行者の受入が可能な医療機関」に掲載されている医療機関数。
交流実績	35	休日の人の多さ	経済産業省・内閣官房「RESAS(地域経済分析システム)」における「休日滞在人口(2018年14時時点、15歳以上80歳未満人口の12か月平均値)」(出典:株式会社NTTドコモ・株式会社ドコモ・インサイトマーケティング「モバイル空間統計」)から夜間人口を引いた値を昼間人口で除した値。	
	36	行楽・観光目的の訪問の多さ	株式会社ブランド総合研究所「地域ブランド調査2019」における「訪問経験Q9(行楽・観光のため)」の値(%)。	
	37	国際会議・展示会開催件数	次の2つの数値にもとづいてスコアを算出した:(1)日本政府観光局(JNTO)「2018年国際会議統計」に掲載されている「国際会議開催件数」。(2)株式会社ピーオービー「展示会データベース2020年版」に掲載されている「展示会開催件数」。	
発信実績	38	観光客誘致活動	次の2つの数値にもとづいてスコアを算出した:(1)国土交通省観光庁「日本版DMO及び日本版DMO候補法人の登録一覧」に掲載されているDMOについて、市区町村単位の地域DMOを1法人につき1点、広域連携DMOと地域連携DMOを1法人につき0.5点として、法人数に重みづけして指数化した値(東京23区については、森記念財団の独自調査により法人を追加)。(2)ツーリズムEXPOジャパンのウェブサイトに掲載されている過去5年の民間を除く出展団体について、市町村単位の団体を1法人につき1点(単体ではない出展も含む)、広域、都道府県レベルの団体を1法人につき0.5点として、団体数に重みづけをして指数化した値。	
	39	自治体SNSフォロワー数	Facebook、Twitter、Youtubeにおける、自治体もしくは観光協会発信の公式アカウントやチャンネル(災害情報や選挙関連情報のみ発信しているものは対象外)の数が大きい方のフォロワー数をソーシャルメディア(SNS)ごとに指数化し、合算した値。	
	40	魅力度・認知度・観光意欲度	株式会社ブランド総合研究所「地域ブランド調査2019」における「魅力度」、「認知度」、「観光意欲度」の3つの点数を合算した値。	

指標の定義

Q: 居住者アンケート結果を用いている指標

分野	指標グループ	No.	指標名	定義
安全・安心		41	刑法犯認知件数の少なさ	警視庁または、各都道府県の警察署が公表する刑法認知件数を昼間人口(千人あたり)で除して算出した値。
		42	交通事故死亡者数の少なさ	公益財団法人交通事故総合分析センター「イタルデザインフォーメーション」に掲載されている平成28～平成30年の「全国市区町村別 交通事故死者数」の平均値を昼間人口(一人あたり)で除して算出した値。
		43	災害時の安全性	次の5つの数値に基づきスコアを算出した:(1)総務省統計局「平成30年住宅・土地統計調査結果」に掲載されている、「1980年以前建築の住宅戸数」を総戸数で除した値。(2)同(1)調査の「総戸数に占める避難場所が1km以上離れている戸数」を総戸数で除した値。(3)国土交通省国土政策局「国土数値情報」に掲載されている「浸水想定区域面積」を総面積で除した値。(4)同(3)掲載の「土砂災害危険箇所データ」および「土砂災害警戒区域データ」における対象面積の合計値を総面積で除した値。(5)総務省統計局「統計でみる市区町村のすがた2016」に掲載されている「建物火災出火件数」を昼間人口(一人あたり)で除して算出した値。
		44	空家率の低さ	総務省統計局「平成30年住宅・土地統計調査」における「居住世帯の有無(8区分)別住宅数及び住宅以外で人が居住する建物数一市区町村」に掲載されている「居住世帯なし」の「空き家」のうち「その他住宅」に区分されている住宅数を、同調査の住宅総数で除して算出した値。
健康・医療		45	医師の多さ	厚生労働省「平成30年医師・歯科医師・薬剤師統計」における「医療施設従事医師数、主たる診療科・従業地による二次医療圏・市区町村別」に掲載されている「医療施設従事医師数」の総数を昼間人口(千人あたり)で除して算出した値。
		46	病院・診療所の多さ	次の2つの数値にもとづいてスコアを算出した:(1)厚生労働省「平成30年医療施設(動態)調査」における施設総数を昼間人口(百万人あたり)で除して指数化した値、および(2)同調査における一般診療所総数を昼間人口(百万人あたり)で除して指数化した値。
		47	平均寿命・健康寿命	次の2つの数値にもとづいてスコアを算出した:(1)厚生労働省「平成27年市区町村別生命表の概況統計表1」の市区町村別平均寿命、および(2)浜松医科大学「平成28年都道府県別健康寿命」(2)は都道府県データのため、(1)の半分の重みづけをした。
育児・教育		48	合計特殊出生率	厚生労働省「平成20～24年 人口動態保健所・市区町村別統計」に掲載されている合計特殊出生率(ベイズ推定値)。
		49	保育ニーズの充足度	厚生労働省「各市区町村における待機児童解消に向けた取組状況の『見える化』について」に掲載されている、0歳児、1・2歳児の申込者数(保育ニーズ)を定員数(整備量)で除した値。
		50	子どもの医療費支援	厚生労働省「平成30年度 乳幼児等に係る医療費の援助についての調査」の「別紙3 市区町村における乳幼児等医療費援助の実施状況」に掲載されている医療費援助(通院)および(入院)の対象年齢に応じた点数(就学前1点、7～9歳年度末2点、12歳年度末3点、15歳年度末4点、18歳年度末5点)、および所得制限と一部自己負担の有無(無しにつき1点、通院・入院どちらか無しの場合は0.5点)の合計点。
		51	教育機会の包容性	次の2つの数値にもとづいてスコアを算出した:(1)学びリンク株式会社「全国フリースクールガイド2019～2020年版 小中高・不登校生の居場所探し」に掲載されているフリースクール数。(2)代表的な高校偏差値情報サイトに掲載されている偏差値65以上の高校数。
市民生活・福祉		52	外国人住民の受入体制	日本経済新聞が2019年2月12日に掲載した外国人住民の受け入れ体制に関する調査結果(記事見出し「外国人政策、自治体格差広がる恐れ」)を用いて、指数化した値。同調査は、日本経済新聞が主要自治体の外国人住民の受け入れに関する主な13項目の取り組み状況を調べたもので、各項目を4カテゴリー(○:すでに実施、△:実施を検討、×:実施していない、-:未回答)に区分している。森記念財団で4カテゴリーを点数化し(「すでに実施」を1点、「実施を検討」を0.5点、「実施していない」や「未回答」を0点。)、その点数を合算した値。掲載のない都市は各自自治体に問い合わせた。
		53	要支援・要介護高齢者の少なさ	厚生労働省「介護保険事業状況報告(暫定)(令和元年12月末分)」における65歳以上の「要介護(要支援)認定者数」を、同報告に記載されている第1号被保険者数(65歳以上人口)で除した値。佐賀市は自治体発表のデータを用い、豊橋市、豊川市、鈴鹿市は推計を行った。
		54	地域包括支援センターの多さ	各自自治体または社会福祉協議会が公開している地域包括支援センター(プランチ、サブセンター、分室を含む)および在宅介護支援センターの合計数を高齢者人口(千人あたり)で除して算出した値。
居住環境		55 Q	居住環境の満足度	居住者アンケート「ご自宅周辺の居住環境(防災性、防犯性、利便性など総合的に)にどれほど満足していますか?」の問いに対する回答をもとに算出した値。
		56	新規住宅供給の多さ	国土交通省「建築着工統計調査報告(令和元年計分)」における「着工建築物:市区町村別、用途別(建築物の数、床面積の合計、工事費予定額)」に掲載されている「A 居住専用住宅」の「床面積の合計(m ²)」の過去3年平均値を、夜間人口(一人あたり)で除して算出した値。
		57	住宅の広さ	総務省統計局「平成30年住宅・土地統計調査結果」における1住宅あたり延べ面積。
		58	住宅のバリアフリー化率	総務省統計局「平成30年住宅・土地統計調査結果」の「バリアフリー化住宅に居住する65歳以上の世帯員のいる主世帯総数」を、「65歳以上の世帯員のいる主世帯総数」で除して算出した値。
生活利便施設		59	小売事業所密度	総務省統計局「平成26年経済センサス-基礎調査結果」における「各種商品小売業」、「織物・衣服・身の回り品小売業」、「飲食料品小売業」、「機械器具小売業」および「その他の小売業」の事業所数を市街化区域(用途地域面積を用いる)で除して算出した値。
		60	飲食店舗密度	総務省統計局「平成26年経済センサス-基礎調査結果」の「事業所に関する集計」における「飲食店」および「持ち帰り・配達飲食サービス業」の事業所数を市街化区域(用途地域面積を用いる)で除して算出した値。
		61	コンビニ密度	代表的なインターネット電話帳に掲載されているコンビニ数を市街化区域(用途地域面積を用いる)で除して算出した値。
生活の余裕度		62	可処分所得	総務省統計局「平成26年全国消費実態調査結果」に掲載されている、二人以上の世帯のうち勤労者世帯の1か月間の「可処分所得額」(実収入から非消費支出を引いた額)。東京23区については「社会・人口統計体系 市区町村データ 基礎データ」の「課税対象所得」および「世帯数」を用いて推計を行った。
		63	物価水準の低さ	総務省統計局「小売物価統計調査(構造編)2018年」に掲載されている、第1表「10大費目別消費者物価地域差指数(全国平均=100)」の、「総合」より算出した値。なお、県庁所在市および政令指定都市以外の都市はデータが掲載されていないため、都道府県の値を代用する。
		64	住宅コストの低さ	総務省統計局「平成26年全国消費実態調査結果」の都道府県別 家計収支に関する結果に掲載されている「住居費」と「持ち家(現住居)の帰属家賃」の合計値。東京23区については、以下の2つのデータをもとに推計した。1)同調査の横浜市の数および東京都特別区部の平均値。2)代表的な賃貸不動産サイトにおける、各区および横浜市の住宅賃料相場(2LDK程度)。

分野	指標グループ	No.	指標名	定義
環境	環境パフォーマンス	65	リサイクル率	環境省「一般廃棄物処理実態調査(平成29年度調査結果)」の「市町村集計結果(ごみ処理状況)」に掲載されているリサイクル率(リサイクル率 R ¹)。東京23区については「東京都23区分」の値。
		66	CO ₂ 排出量の少なさ	環境省「地球温暖化対策地方公共団体実行計画(区域施策編)策定支援サイト」の「策定支援ツール・事例」に掲載されている「部門別CO ₂ 排出量の現況推計(平成31年3月)」の各市区町村のCO ₂ 排出量合計値。
		67	再生可能エネルギー自給率	千葉大学倉阪研究室+認定NPO法人環境エネルギー政策研究所提供の「永続地帯2019年度版 市区町村別集計表(総合) 2018年度実績推計」の再生可能エネルギー自給率(電力+熱)の値。太陽光発電、事業用発電、地熱発電、小水力発電、バイオマス発電、バイオマス熱、太陽熱利用、地熱利用が対象。
		68	EV充電スタンドの多さ	代表的な地図ポータルサイトに掲載されている全国の電気自動車充電スタンド一覧より、住所情報にもとづいてカウントした件数を、一般財団法人自動車検査登録情報協会「市区町村別 自動車保有車両数 平成31年3月末現在 -No.47-」に掲載されている乗用車保有車両数(普通・小型の自家用及び営業用)で除して算出した値。
	自然環境	69 Q	自然環境の満足度	居住者アンケート「自然環境(山や森、海や川、緑豊かな公園や街路樹など)にどれほど満足していますか?」の問いに対する回答をもとに算出した値。
		70	都市地域緑地率	国土交通省国土政策局「国土数値情報(平成28年)」における「都市地域土地利用細分メッシュ」を用いて、田、その他の農用地、森林、荒地、公園・緑地、ゴルフ場の面積を抽出し、都市地域総面積で除して算出した値。「都市地域」とは、国土を都市地域、農業地域、森林地域、自然公園地域、自然保全地域の5地域に分類したときの「都市地域」を指し、都市計画法第5条により都市計画区域として指定されている又は指定されることが予定されている地域を指す。
		71	水辺の充実度	株式会社東京地図研究社のオリジナル地図データ「MapPackage」を用いて、行政区域総面積における水辺面積を推計し、これを行政区域総面積で除して算出した値。水辺面積の推計は以下のルールにもとづいて行った。(1)面データがある水域(主に海)においては、陸域から100m圏内の水面の面積を算出した。(2)線データしかない水域(主に川)においては、陸域から100m圏内の水域の線データの長さ(線データの幅を10mと設定し、算出した長さに乗じた。(利用した「MapPackage」での水域の取得基準により、水域の数値が0となっている場合がある)
	快適性	72	年間日照時間	国土交通省国土政策局「国土数値情報(平成28年)」における「平年値(気候)メッシュ」における年合計日照時間。
		73	気温・湿度が快適な日数	気象庁「過去の気象データ・ダウンロード」に掲載されている、各都市が属する都道府県の管区気象台、地方気象台、特別地域気象観測所の各観測地点のうち、市(区)役所所在地最寄りの地点の2019年1年間の不快指数が60以上75以下の日数をカウント。不快指数は、日平均気温および日平均湿度を用いて、以下の計算方法で算出した。不快指数(DI)=0.81T+0.01H×(0.99T-14.3)+46.3 (Tは気温°C、Hは湿度%)
		74	空気のきれいさ	国立環境研究所「大気環境月間値・年間値データ」における「窒素酸化物(NO _x)」の濃度と「微小粒子状物質(PM _{2.5})」の濃度において、全測定局の2017年の年間平均値をそれぞれ指数化し、合算した値。
交通・アクセス	都市内交通	75 Q	公共交通の利便性	居住者アンケート「公共交通(鉄道やバスなどの運行本数、施設・設備、サービスなど総合的に)にどれほど満足していますか?」の問いに対する回答をもとに算出した値。
		76	鉄道駅・バス停密度	国土交通省国土政策局「国土数値情報(平成30年)」における「鉄道駅データ」と「バス停留所データ」に掲載されている鉄道駅数とバス停留所数を、都市計画区域面積からそれぞれ密度を算出し、指数化した値を合算した。鉄道駅については、路線ごとにカウントした。
		77	交通渋滞の少なさ	国土交通省「平成27年度 全国道路・街路交通情勢調査」に掲載されている旅行速度整理表(都道府県別道路種別別)より、自動車専用道路以外の昼間12時間平均旅行速度(時間帯別交通量加重)の上り・下りを平均した値。
	都市外アクセス	78	空港アクセス時間の短さ	対象都市における市区役所から2時間以内で到達可能な空港(対象空港)までの平均所要時間。平均所要時間の算出にあたっては、(1)Googleマップで算出される各市区役所から対象空港までの最短アクセス時間(平日朝10時到着、自動車による移動)、および(2)国土交通省東京航空局および大阪航空局の「管内空港の利用概況集計表」より集計した空港別の年間旅客者数(国内線・国際線合計)の2つのデータを取得した上で、各空港の旅客者数と所要時間をもとに対象都市ごとの平均所要時間を算出した値を用いた。
		79	新幹線の利用のしやすさ	次の2つの数値に基づきスコアを算出した:(1)新幹線の停車駅がある都市は、国土交通省国土政策局「国土数値情報(平成29年)」の「駅別乗降客数データ」から取得した新幹線(山形新幹線・秋田新幹線を含む)停車駅の乗降客数(新幹線・在来線の合算値)。新幹線の停車駅がない都市は、対象都市内で乗降客数が最大の駅から最も近い新幹線の停車駅の乗降客数。(2)新幹線の停車駅がない都市は、都市内の中心駅(最も乗降客数が多い駅)から新幹線駅までの移動時間(平日朝10時到着、鉄道による移動)。新幹線の停車駅がある都市は、移動時間を0とした。なお、始発でも新幹線の停車駅に朝10時までに到達が不可能な場合は、スコア0とした。乗降客数の記載がない駅は個別にデータを収集した。
		80	インターチェンジ数	国土交通省国土政策局「国土数値情報(平成30年)」の「高速道路時系列データ」における「一般インターチェンジ」および「スマートインターチェンジ」の数。
	移動の容易性	81	都市のコンパクトさ	総務省統計局「平成27年国勢調査」における人口等基本集計(男女・年齢・配偶関係、世帯の構成、住居の状態など)に掲載されている、人口集中地区の人口を夜間人口で除して算出した割合。なお、人口集中地区とは「(1)原則として人口密度が1平方キロメートルあたり4,000人以上の基本単位区等が市区町村の境界内で互いに隣接して、(2)それらの隣接した地域の人口が国勢調査時に5,000人以上を有する地域」。
82		通勤時間の短さ	総務省「平成30年住宅・土地統計調査」における家計を主に支える者の通勤時間の中央値。	
83		駅のバリアフリー化率	株式会社ヴァル研究所「駅すばあとWeb サービス」で取得した全鉄道駅のバリアフリー化の整備状況を、以下の条件で点数化した合計値。「(段差なしでの移動経路)が有る場合は1点、要駅員補助は0.5点、無い場合は0点)なお、点数化は鉄道会社ごとに行い、情報が当サービスに掲載されていない駅は0点とする。	

指標の定義

Q: 居住者アンケート結果を用いている指標



日本の都市特性評価

Japan Power Cities — Profiling Urban Attractiveness

2020年8月

編集・発行

一般財団法人 森記念財団 都市戦略研究所

装丁・印刷：光村印刷株式会社

調査に関するお問い合わせ

iusall@mori-m-foundation.or.jp

一般財団法人 森記念財団 都市戦略研究所

〒105-0001 東京都港区虎ノ門3丁目5番1号 虎ノ門37 森ビル

TEL : 03-6406-6800

www.mori-m-foundation.or.jp

© 2020 The Mori Memorial Foundation

このパンフレットを許可なく複製・頒布することを禁じます。

J a p a n

P o w e r

C i t i e s

Profiling Urban Attractiveness